

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁

改定前

改定後

1-90

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
舗装工		縦目地	目地材種類・厚さ	m	1	
舗装工		横目地	目地形式	m	1	
舗装工		目地切り・清掃		m	1	
舗装工		薄層カラー舗装	舗装色 規格・使用	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工		インターロッキングブ ロック舗装	ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工規格	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工		特殊ブロック舗装	作業区分 ブロック規格	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工	舗装工（1CT）	下層路盤（車道・路肩部） （1CT）	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工		上層路盤（車道・路肩部） （1CT）	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工	路肩板工	路肩板	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m ²	1	
舗装工	区画線工	区画線	施工方法区分 規格・仕様区分 塗布厚 排水性舗装の有無	m	10	ただし100m未満の場 合は11m
舗装工		区画線消去	施工方法区分	m	1	
地盤改良工	安定処理工	安定処理	混合深さ 固化材100m ² あたり使用量 固化材の種類	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
地盤改良工	圧入式土質改良工	土質改良	改良土質 固化材1m ³ あたり使用量 固化材の種類	m ²	100	ただし1000m ² 未満の場 合は110m ²
地盤改良工	置換工	置換	置換材料 施工数量	m ²	100	ただし1,000m ² 未満の 場合は110m ²
地盤改良工	サンドマット工	サンドマット	砂材料量の有無	m ²	10	
地盤改良工	パイルネット工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長（掘削長）	本	1	
地盤改良工		木杭	杭材質 杭長 杭末口	本	1	
地盤改良工		連結鉄筋	鉄筋材料規格・径	t	0.1	ただし1t未満の場合 は0.01t
地盤改良工		安定シート	シート種類	m ²	10	
地盤改良工	バーチカルドレーン 工	サンドドレーン	径 S D打設長 S D杭径 S C P径 S C P打設長 S C P杭径	本	1	
地盤改良工		PVD（プレファブリケイ テッドバーチカルドレー ン）	材料規格 長さ（打設長）	本	1	
地盤改良工	垂直改良工	サンドコンパクションバ イル	径 S D打設長 S D杭径	本	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
舗装工		縦目地	目地材種類・厚さ	m	1	
舗装工		横目地	目地形式	m	1	
舗装工		目地切り・清掃		m	1	
舗装工		薄層カラー舗装	舗装色 規格・使用	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工		インターロッキングブ ロック舗装	ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工規格	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工		特殊ブロック舗装	作業区分 ブロック規格	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工	舗装工（1CT）	下層路盤（車道・路肩部） （1CT）	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工		上層路盤（車道・路肩部） （1CT）	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
舗装工	路肩板工	路肩板	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m ²	1	
舗装工	区画線工	区画線	施工方法区分 規格・仕様区分 塗布厚 排水性舗装の有無	m	10	ただし100m未満の場 合は11m
舗装工		区画線消去	施工方法区分	m	1	
地盤改良工	安定処理工	安定処理	混合深さ 固化材100m ² あたり使用量 固化材の種類	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は11m ²
地盤改良工	圧入式土質改良工	土質改良	改良土質 固化材1m ³ あたり使用量 固化材の種類	m ²	100	ただし1000m ² 未満の場 合は110m ²
地盤改良工	置換工	置換	置換材料 施工数量	m ²	100	ただし1,000m ² 未満の 場合は110m ²
地盤改良工	サンドマット工	サンドマット	砂材料量の有無	m ²	10	
地盤改良工	パイルネット工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長（掘削長）	本	1	
地盤改良工		木杭	杭材質 杭長 杭末口	本	1	
地盤改良工		連結鉄筋	鉄筋材料規格・径	t	0.1	ただし1t未満の場合 は0.01t
地盤改良工		安定シート	シート種類	m ²	10	
地盤改良工		PVD（プレファブリケイ テッドバーチカルドレー ン）	材料規格 長さ（打設長）	本	1	

1-90

98

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁

改定前

改定後

1-91

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
			S C P 径			
			S C P 打設長			
			S C P 杭径			
地盤改良工	固結工	高圧噴射攪拌	工法 注入材種類 長さ（注入長） 長さ（土被長）	本	1	
地盤改良工		スラリー攪拌	改良材種類 杭径 長さ（打設長） 長さ（杭長）	本	1	
地盤改良工		中層混合処理	改良深度 施工規模	m ²	1	
地盤改良工		薬液注入	注入材料	本	1	
地盤改良工（I C T）	安定処理工	安定処理（I C T）	混合深さ 固化材100m ² あたり使用量 固化材の種類	m ²	1	
地盤改良工（I C T）	固結工	スラリー攪拌（I C T）	改良材種類 杭径、長さ（打設長） 長さ（杭長）	本	1	
地盤改良工（I C T）		中層混合処理（I C T）	改良深度 施工規模	m ²	1	
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	構造物区分 工法区分 施工規模	m ²	1	
構造物撤去工		舗装版切断	舗装版種別 舗装厚	m	10	ただし100m未満の場合は1m
構造物撤去工		舗装版破砕	舗装版種別 舗装版厚	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
構造物撤去工		コンクリートはつり	平均はつり厚	m ²	1	ただし10m ² 未満の場合は0.1m ²
構造物撤去工		吹付法面取壊し	集積積込の有無 工法区分	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格（種類他）	箇所	1	
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格（種類他）	m	1	
構造物撤去工		鋼矢板引抜	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		H鋼板引抜	H鋼形式 引抜長	本	1	
構造物撤去工		広幅鋼矢板引抜き	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		コンクリートブロック撤去		m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
構造物撤去工		覆工版設置・撤去		m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
構造物撤去工		根固めブロック撤去	ブロック規格	個	1	
構造物撤去工		散連搬	散種別	m ²	1	
構造物撤去工		散処分	散種別	m ²	1	
構造物撤去工		現場発生品運搬	発生材種類	t	0.01	
構造物撤去工	道路施設撤去工	側溝・街渠撤去	作業区分	m	1	
構造物撤去工		集水柵・マンホール撤去	製品質量（kg/基）	基	1	
構造物撤去工		蓋版撤去		枚	1	
構造物撤去工		防護・防止柵撤去		m	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
地盤改良工	固結工	高圧噴射攪拌	工法 注入材種類 長さ（注入長） 長さ（土被長）	本	1	
地盤改良工		スラリー攪拌	改良材種類 杭径 長さ（打設長） 長さ（杭長）	本	1	
地盤改良工		中層混合処理	改良深度 施工規模	m ²	1	
地盤改良工		薬液注入	注入材料	本	1	
地盤改良工（I C T）	安定処理工	安定処理（I C T）	混合深さ 固化材100m ² あたり使用量 固化材の種類	m ²	1	
地盤改良工（I C T）	固結工	スラリー攪拌（I C T）	改良材種類 杭径、長さ（打設長） 長さ（杭長）	本	1	
地盤改良工（I C T）		中層混合処理（I C T）	改良深度 施工規模	m ²	1	
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	構造物区分 工法区分 施工規模	m ²	1	
構造物撤去工		舗装版切断	舗装版種別 舗装厚	m	10	ただし100m未満の場合は1m
構造物撤去工		舗装版破砕	舗装版種別 舗装版厚	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
構造物撤去工		コンクリートはつり	平均はつり厚	m ²	1	ただし10m ² 未満の場合は0.1m ²
構造物撤去工		吹付法面取壊し	集積積込の有無 工法区分	m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格（種類他）	箇所	1	
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格（種類他）	m	1	
構造物撤去工		鋼矢板引抜	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		H鋼板引抜	H鋼形式 引抜長	本	1	
構造物撤去工		広幅鋼矢板引抜き	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		コンクリートブロック撤去		m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
構造物撤去工		覆工版設置・撤去		m ²	10	ただし100m ² 未満の場合は1m ²
構造物撤去工		根固めブロック撤去	ブロック規格	個	1	
構造物撤去工		散連搬	散種別	m ²	1	
構造物撤去工		散処分	散種別	m ²	1	
構造物撤去工		現場発生品運搬	発生材種類	t	0.01	
構造物撤去工	道路施設撤去工	側溝・街渠撤去	作業区分	m	1	
構造物撤去工		集水柵・マンホール撤去	製品質量（kg/基）	基	1	
構造物撤去工		蓋版撤去		枚	1	
構造物撤去工		防護・防止柵撤去		m	1	

1 - 91

99

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁

改定前

改定後

1-114

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
道路修繕		コンクリート面・岩盤清 掃		㎡	1	
道路修繕	トンネル工	内装板	内装板材質	㎡	1	
道路修繕		裏込注入	注入材種類 配合 トンネル種別 トンネル平均距離 足場の有無	㎡	1	
道路修繕		面導水	導水材種類	㎡	1	
道路修繕		線導水	導水材種類	m	1	
道路修繕		鋼板巻立て	支柱区分 注入材材質	㎡	1	
道路修繕		ブルーピング	溝寸法・溝間隔 施工規模 舗装面種類	㎡	1	
道路修繕		ブルーピング(路面排水 用)	溝寸法 舗装面種類	m	1	
道路修繕		鋼・ゴム製伸縮装置補修	工種 伸縮装置本体形式 仕様 本体材料の計上の有無	m	1	
道路修繕	橋梁補修工	橋梁地盤補修	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m	1	
道路修繕		下地処理	1機当りの延べ施工量	機	1	
道路修繕		プライマー塗布	1機当りの延べ施工量 材料種類	機	1	
道路修繕		下塗り(パテ塗布)	1機当りの延べ施工量 材料種類	機	1	
道路修繕		中塗り材塗布	1機当りの延べ施工量 材料種類	機	1	
道路修繕		上塗り材塗布	1機当りの延べ施工量 材料種類	機	1	
道路維持	点検・巡回工	通常巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1	
道路維持		緊急巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1	
道路維持	コンクリート舗装補 修工	アスファルト注入	材料種類 削孔数	t	0.1	ただし1t未満の場合 は0.01t
道路維持		舗装版目地補修	材料種類	m	1	
道路維持		クラック処理	使用材料の種類	m	1	
道路維持	アスファルト舗装維 持工	わだち据れ補修	材料種類	㎡	1	
道路維持		パッチング	材料種類	t	0.1	
道路維持	付属物復旧工	舗装版削孔		孔	1	
道路維持		ガードケープル復旧	ガードケープル規格 材料費の有無 作業条件	m	1	
道路維持		転落(横断)防止柵復旧	防護柵種類 高さ 支柱間隔 根帯コンクリートの有無 施工区分	m	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
道路修繕		コンクリート面・岩盤清 掃		㎡	1	
道路修繕	トンネル工	内装板	内装板材質	㎡	1	
道路修繕		裏込注入	注入材種類 配合 トンネル種別 トンネル平均距離 足場の有無	㎡	1	
道路修繕		面導水	導水材種類	㎡	1	
道路修繕		線導水 (溝切工)	導水材種類	m	1	
道路修繕		線導水 (導水施工)	導水材種類・導水幅	m	1	
道路修繕		鋼板巻立て	支柱区分・注入材材質	㎡	1	
道路修繕		ブルーピング	溝寸法・溝間隔 施工規模 舗装面種類	㎡	1	
道路修繕		ブルーピング(路面排水 用)	溝寸法 舗装面種類	m	1	
道路修繕		鋼・ゴム製伸縮装置補修	工種 伸縮装置本体形式 仕様 本体材料の計上の有無	m	1	
道路修繕	橋梁補修工	橋梁地盤補修	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m	1	
道路修繕		下地処理	1機当りの延べ施工量	機	1	
道路修繕		プライマー塗布	1機当りの延べ施工量 材料種類	機	1	
道路修繕		下塗り(パテ塗布)	1機当りの延べ施工量 材料種類	機	1	
道路修繕		中塗り材塗布	1機当りの延べ施工量 材料種類	機	1	
道路修繕		上塗り材塗布	1機当りの延べ施工量 材料種類	機	1	
道路維持	点検・巡回工	通常巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1	
道路維持		緊急巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1	
道路維持	コンクリート舗装補 修工	アスファルト注入	材料種類 削孔数	t	0.1	ただし1t未満の場合 は0.01t
道路維持		舗装版目地補修	材料種類	m	1	
道路維持		クラック処理	使用材料の種類	m	1	
道路維持	アスファルト舗装維 持工	わだち据れ補修	材料種類	㎡	1	
道路維持		パッチング	材料種類	t	0.1	
道路維持	付属物復旧工	舗装版削孔		孔	1	
道路維持		ガードケープル復旧	ガードケープル規格 材料費の有無 作業条件	m	1	
道路維持		転落(横断)防止柵復旧	防護柵種類 高さ 支柱間隔 根帯コンクリートの有無 施工区分	m	1	

1-114

122

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁

改定前

改定後

1-145

編・章	工種	施工パッケージ	単位	作業日当り 標準作業量	摘要
第3章 道路 維持 修繕工	路面清掃工 (人力清掃工)	路面清掃(路肩部・人力)	km	第14章④による	・路面清掃(路肩部・人力)、路面清掃(歩道部・人力)に係る作業を一連の作業として判定する。
		路面清掃(歩道部・人力)	m2	第14章④による	
	側溝清掃工 (人力清掃工)	側溝清掃(人力清掃工)	m	第14章④による	
	集水樹清掃工 (人力清掃工)	樹清掃(人力清掃工)	箇所	第14章④による	
	トンネル 漏水対策工	面導水	m2	34	・面導水、線導水に係る作業を一連の作業として判定する。
		面導水(材料費)	m2	-	
		線導水	m	10	
		線導水(材料費)	m	-	
	寄座拡幅工	チップング (厚2cm以下)	m2	5.3	・チップング(厚2cm以下)、アンカー筋挿入、及び落橋防止装置工のうちコンクリート削孔(電動式コアボーリングマシン)、コンクリート削孔(電動ハンマドリル)、コンクリート削孔(さく岩機[ハンドドリル空圧式])、充填補修、アンカーに係る作業を一連の作業として判定する。
		アンカー筋挿入	本	91	
		アンカー筋(材料費)	本	-	
		注入材(材料費)	本	-	
		鉄筋(寄座拡幅工)	t	0.70	
		型枠(寄座拡幅工)	m2	8.8	
		コンクリート(寄座拡幅工)	m3	6.7	

編・章	工種	施工パッケージ	単位	作業日当り 標準作業量	摘要
第3章 道路 維持 修繕工	路面清掃工 (人力清掃工)	路面清掃(路肩部・人力)	km	第14章④による	・路面清掃(路肩部・人力)、路面清掃(歩道部・人力)に係る作業を一連の作業として判定する。
		路面清掃(歩道部・人力)	m2	第14章④による	
	側溝清掃工 (人力清掃工)	側溝清掃(人力清掃工)	m	第14章④による	
	集水樹清掃工 (人力清掃工)	樹清掃(人力清掃工)	箇所	第14章④による	
	トンネル 漏水対策工	面導水	m2	34	・面導水、線導水(溝切り工)、線導水(導水施工)に係る作業を一連の作業として判定する。
		面導水(材料費)	m2	-	
		線導水(溝切り工)	m	8.6	
		線導水(材料費)	m	-	
		線導水(導水施工)	m	I-14-④による	
		線導水(導水施工)(材料費)	m	-	
	寄座拡幅工	チップング (厚2cm以下)	m2	5.3	・チップング(厚2cm以下)、アンカー筋挿入、及び落橋防止装置工のうちコンクリート削孔(電動式コアボーリングマシン)、コンクリート削孔(電動ハンマドリル)、コンクリート削孔(さく岩機[ハンドドリル空圧式])、充填補修、アンカーに係る作業を一連の作業として判定する。
		アンカー筋挿入	本	91	
		アンカー筋(材料費)	本	-	
		注入材(材料費)	本	-	
		鉄筋(寄座拡幅工)	t	0.70	
		型枠(寄座拡幅工)	m2	8.8	
		コンクリート(寄座拡幅工)	m3	6.7	

1-145

令和8年7月20日以降適用
1-145

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁	改定前		改定後	
1-153	1-60 鋼管ソイルセメント杭工……………1-202	2- 6 浚渫工(バックホウ浚渫船)(ICT)	1-60 鋼管ソイルセメント杭工……………1-202	2- 6 浚渫工(バックホウ浚渫船)(ICT)
	1-61 場所打杭工(全回転式オールケーシング工)	……………1-221	1-61 場所打杭工(全回転式オールケーシング工)	……………1-221
	1-62 場所打杭工(大口径ボーリングマシン工)	……………1-221	1-62 場所打杭工(大口径ボーリングマシン工)	……………1-221
	1-63 場所打杭工(ダウンザホールハンマ工)	……………1-202	1-63 場所打杭工(ダウンザホールハンマ工)	……………1-202
	1-64 深礎工……………1-203	2- 8 堤防除草工……………1-226	1-64 深礎工……………1-203	2- 8 堤防除草工……………1-226
	1-65 コンクリート工(深礎工)……………1-203	2- 9 堤防芝養生工……………1-227	1-65 コンクリート工(深礎工)……………1-203	2- 9 堤防芝養生工……………1-227
	1-66 ニューマチックケーソン工……………1-203	2-10 伐木除根工……………1-227	1-66 ニューマチックケーソン工……………1-203	2-10 伐木除根工……………1-227
	1-67 基礎工(鋼管矢板基礎工)……………1-204	2-11 塵芥処理工……………1-231	1-67 基礎工(鋼管矢板基礎工)……………1-204	2-11 塵芥処理工……………1-231
	1-68 杭頭処理工……………1-204	2-12 ボーリンググラウト工……………1-237	1-68 杭頭処理工……………1-204	2-12 ボーリンググラウト工……………1-237
	1-69 泥水運搬工……………1-205	2-13 粗朶沈床工……………1-238	1-69 泥水運搬工……………1-205	2-13 粗朶沈床工……………1-238
	1-70 コンクリート工……………1-205	2-14 機械土工(河床等掘削)……………1-238	1-70 コンクリート工……………1-205	2-14 機械土工(河床等掘削)……………1-238
	1-71 型枠工……………1-205	2-15 機械土工(河床等掘削)(ICT)	1-71 型枠工……………1-205	2-15 機械土工(河床等掘削)(ICT)
	1-72 型枠工(省力化構造)……………1-205	……………1-239	1-72 型枠工(省力化構造)……………1-205	……………1-239
	1-73 張りコンクリート工……………1-206	2-16 巨石積(張)工……………1-241	1-73 張りコンクリート工……………1-206	2-16 巨石積(張)工……………1-241
	1-74 パイプロハンマ工……………1-206	2-17 木杭打工……………1-241	1-74 パイプロハンマ工……………1-206	2-17 木杭打工……………1-241
	1-75 パイプロハンマ工(軽量鋼矢板打込引抜工)	……………1-241	1-75 パイプロハンマ工(軽量鋼矢板打込引抜工)	……………1-241
	……………1-206	2-18 巨石掘付工……………1-241	……………1-206	2-18 巨石掘付工……………1-241
	1-76 油圧圧入引抜工……………1-206	2-19 護岸基礎ブロック工……………1-242	1-76 油圧圧入引抜工……………1-206	2-19 護岸基礎ブロック工……………1-242
	1-77 鋼矢板工(アースオーガ併用圧入工)	2-20 かごマット工(スロープ型)……………1-243	1-77 鋼矢板工(アースオーガ併用圧入工)	2-20 かごマット工(スロープ型)……………1-243
	……………1-206	2-21 かごマット工(多段積型)……………1-243	……………1-206	2-21 かごマット工(多段積型)……………1-243
	1-78 鋼矢板工(クレーン引抜工)……………1-206	2-22 ブロックマット工……………1-243	1-78 鋼矢板工(クレーン引抜工)……………1-206	2-22 ブロックマット工……………1-243
	1-79 鋼矢板工(H形鋼)……………1-206	2-23 袋詰玉石工……………1-243	1-79 鋼矢板工(H形鋼)……………1-206	2-23 袋詰玉石工……………1-243
	1-80 仮設材設置撤去工……………1-207	2-24 笠コンクリートブロック掘付工	1-80 仮設材設置撤去工……………1-207	2-24 笠コンクリートブロック掘付工
	1-81 足場工……………1-207	……………1-244	1-81 足場工……………1-207	……………1-244
	1-82 支保工……………1-208	2-25 グラウトホール工……………1-244	1-82 支保工……………1-208	2-25 グラウトホール工……………1-244
	1-83 締切排水工……………1-208	2-26 連節ブロックの水中吊落し工	1-83 締切排水工……………1-208	2-26 連節ブロックの水中吊落し工
	1-84 ウェルポイント工……………1-208	……………1-244	1-84 ウェルポイント工……………1-208	……………1-244
	1-85 土のう工……………1-208	2-27 光ケーブル配管工……………1-245	1-85 土のう工……………1-208	2-27 光ケーブル配管工……………1-245
	1-86 大型土のう工……………1-208	2-28 土工(砂防工)……………1-245	1-86 大型土のう工……………1-208	2-28 土工(砂防工)……………1-245
	1-87 仮橋・仮橋機工……………1-209	2-29 土工(砂防工)(ICT)……………1-246	1-87 仮橋・仮橋機工……………1-209	2-29 土工(砂防工)(ICT)……………1-246
	1-88 汚濁防止フェンス工……………1-209	2-30 コンクリート工(砂防工)……………1-247	1-88 汚濁防止フェンス工……………1-209	2-30 コンクリート工(砂防工)……………1-247
	1-89 仮囲い設置撤去工……………1-209	2-31 コンクリート工(ケーブルクレーン打設)	1-89 仮囲い設置撤去工……………1-209	2-31 コンクリート工(ケーブルクレーン打設)
	1-90 雪害仮囲い工……………1-209	……………1-247	1-90 雪害仮囲い工……………1-209	……………1-247
	1-91 切土及び発破防護柵工……………1-209	2-32 残存型枠工……………1-247	1-91 切土及び発破防護柵工……………1-209	2-32 残存型枠工……………1-247
	1-92 濁水処理工(一般土木工事)……………1-210	2-33 養生工(練炭)……………1-248	1-92 濁水処理工(一般土木工事)……………1-210	2-33 養生工(練炭)……………1-248
	1-93 敷鉄板設置・撤去工……………1-210	2-34 砂防土砂仮締切・砂防大型土のう仮締切	1-93 敷鉄板設置・撤去工……………1-210	2-34 砂防土砂仮締切・砂防大型土のう仮締切
	1-94 防塵処理工……………1-210	……………1-248	1-94 防塵処理工……………1-210	……………1-248
	1-95 法面工(仮設用モルタル吹付工)	2-35 砂防コンクリート仮締切……………1-248	1-95 法面工(仮設用モルタル吹付工)	2-35 砂防コンクリート仮締切……………1-248
	……………1-210	2-36 鋼製砂防工……………1-248	……………1-210	2-36 鋼製砂防工……………1-248
	2 【河川編】	2-37 砂防ソイルセメント工……………1-249	2 【河川編】	2-37 砂防ソイルセメント工……………1-249
	2- 1 消波根固めブロック工……………1-211	2-38 集水井工(ライナープレート土留工法)		2-38 集水井工(ライナープレート土留工法)
	2- 2 消波根固めブロック工(ブロック撤去工)	……………1-250		……………1-250
	……………1-220	2-39 地すべり防止工(集排水ボーリング工)		……………1-250
	2- 3 捨石工……………1-220	……………1-250		……………1-250
	2- 4 消波工……………1-221	2-40 地すべり防止工(山腹水路工)		……………1-251
	2- 5 浚渫工(バックホウ浚渫船)……………1-221	……………1-251		……………1-251
		2-41 地すべり防止工(かご工)……………1-251		……………1-251
		2-42 集排水ボーリング孔洗浄工……………1-251		……………1-251
		3 【道路編】		
		3- 1 路盤工……………1-252		……………1-252

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁

改定前

改定後

1-204

工 種 名	設 定 内 容								
基礎工（鋼管矢板基礎工）	① 鋼管矢板打込工（打撃工法）・・・ 該当工種の計算式（10本当り施工日数）を参照。 ② 鋼管矢板打込工（中掘工法）・・・ 該当工種の計算式（1本当り施工時間）を参照。 ③ 鋼管内掘削工，鋼管内コンクリート打設工，継手管内排土工， 継手管内モルタル注入工，継手管内止水材注入工，井筒内掘削工，底面均し（敷砂）工 底盤コンクリート打設工，井筒内支保設置・撤去工，井筒内支保間詰コンクリート工 コネクタ取付工（鉄筋スタッド方式・プレートブラケット方式）， 鋼管矢板切断・撤去工・・・ 該当工種の基準内に記載。								
杭頭処理工	① 既製コンクリート杭カットオフ工 <table><tr><th>杭径</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>φ 300～450mm</td><td>5.9 本／日</td></tr><tr><td>φ 500～600mm</td><td>3.4 本／日</td></tr><tr><td>φ 700～800mm</td><td>2.4 本／日</td></tr></table>	杭径	作業日当り標準作業量	φ 300～450mm	5.9 本／日	φ 500～600mm	3.4 本／日	φ 700～800mm	2.4 本／日
杭径	作業日当り標準作業量								
φ 300～450mm	5.9 本／日								
φ 500～600mm	3.4 本／日								
φ 700～800mm	2.4 本／日								

工 種 名	設 定 内 容																																																																																				
基礎工（鋼管矢板基礎工）	① 鋼管矢板打込工（打撃工法）・・・ 該当工種の計算式（10本当り施工日数）を参照。 ② 鋼管矢板打込工（中掘工法）・・・ 該当工種の計算式（1本当り施工時間）を参照。 ③ 鋼管内掘削工，鋼管内コンクリート打設工，継手管内排土工， 継手管内モルタル注入工，継手管内止水材注入工，井筒内掘削工，底面均し（敷砂）工 底盤コンクリート打設工，井筒内支保設置・撤去工，井筒内支保間詰コンクリート工 コネクタ取付工（鉄筋スタッド方式・プレートブラケット方式）， 鋼管矢板切断・撤去工・・・ 該当工種の基準内に記載。																																																																																				
杭頭処理工	① 既製コンクリート杭カットオフ工 <table><tr><th>杭径</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>φ 300～450mm</td><td>5.9 本／日</td></tr><tr><td>φ 500～600mm</td><td>3.4 本／日</td></tr><tr><td>φ 700～800mm</td><td>2.4 本／日</td></tr></table>	杭径	作業日当り標準作業量	φ 300～450mm	5.9 本／日	φ 500～600mm	3.4 本／日	φ 700～800mm	2.4 本／日																																																																												
杭径	作業日当り標準作業量																																																																																				
φ 300～450mm	5.9 本／日																																																																																				
φ 500～600mm	3.4 本／日																																																																																				
φ 700～800mm	2.4 本／日																																																																																				
鉄筋工	①加工・組立 <table><tr><th rowspan="2">鉄筋径（mm）</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>一般構造物/ トンネル内構造物</th><th>橋梁用床版</th><th>場所打ち杭の 鉄筋かご</th><th>差筋および 杭頭処理</th></tr><tr><td>10～13</td><td>0.8t/日</td><td>0.9t/日</td><td>1.0t/日</td><td>0.9t/日</td></tr><tr><td>16～25</td><td>1.2t/日</td><td>1.3t/日</td><td>1.7t/日</td><td>1.2t/日</td></tr><tr><td>29～32</td><td>1.7t/日</td><td>－</td><td>2.2t/日</td><td>1.8t/日</td></tr><tr><td>35</td><td>1.8t/日</td><td>－</td><td>2.8t/日</td><td>1.9t/日</td></tr><tr><td>38</td><td>1.9t/日</td><td>－</td><td>－</td><td>2.1t/日</td></tr><tr><td>41</td><td>2.0t/日</td><td>－</td><td>－</td><td>2.2t/日</td></tr><tr><td>51</td><td>2.4t/日</td><td>－</td><td>－</td><td>2.6t/日</td></tr></table> ②ガス圧接継手 <table><tr><th>鉄筋径（mm）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>16～25</td><td>132箇所/日</td></tr><tr><td>29～32</td><td>86箇所/日</td></tr><tr><td>35</td><td>75箇所/日</td></tr><tr><td>38</td><td>69箇所/日</td></tr><tr><td>41</td><td>64箇所/日</td></tr><tr><td>51</td><td>51箇所/日</td></tr></table> ③機械式継手 <table><tr><th rowspan="2">鉄筋径（mm）</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>グラウト</th><th>ねじ加工</th></tr><tr><td>13</td><td>119箇所/日</td><td>246箇所/日</td></tr><tr><td>16～25</td><td>103箇所/日</td><td>186箇所/日</td></tr><tr><td>29～32</td><td>90箇所/日</td><td>156箇所/日</td></tr><tr><td>36</td><td>87箇所/日</td><td>147箇所/日</td></tr><tr><td>38</td><td>85箇所/日</td><td>134箇所/日</td></tr><tr><td>41</td><td>82箇所/日</td><td>134箇所/日</td></tr><tr><td>51</td><td>78箇所/日</td><td>123箇所/日</td></tr></table>	鉄筋径（mm）	作業日当り標準作業量				一般構造物/ トンネル内構造物	橋梁用床版	場所打ち杭の 鉄筋かご	差筋および 杭頭処理	10～13	0.8t/日	0.9t/日	1.0t/日	0.9t/日	16～25	1.2t/日	1.3t/日	1.7t/日	1.2t/日	29～32	1.7t/日	－	2.2t/日	1.8t/日	35	1.8t/日	－	2.8t/日	1.9t/日	38	1.9t/日	－	－	2.1t/日	41	2.0t/日	－	－	2.2t/日	51	2.4t/日	－	－	2.6t/日	鉄筋径（mm）	作業日当り標準作業量	16～25	132箇所/日	29～32	86箇所/日	35	75箇所/日	38	69箇所/日	41	64箇所/日	51	51箇所/日	鉄筋径（mm）	作業日当り標準作業量		グラウト	ねじ加工	13	119箇所/日	246箇所/日	16～25	103箇所/日	186箇所/日	29～32	90箇所/日	156箇所/日	36	87箇所/日	147箇所/日	38	85箇所/日	134箇所/日	41	82箇所/日	134箇所/日	51	78箇所/日	123箇所/日
鉄筋径（mm）	作業日当り標準作業量																																																																																				
	一般構造物/ トンネル内構造物	橋梁用床版	場所打ち杭の 鉄筋かご	差筋および 杭頭処理																																																																																	
10～13	0.8t/日	0.9t/日	1.0t/日	0.9t/日																																																																																	
16～25	1.2t/日	1.3t/日	1.7t/日	1.2t/日																																																																																	
29～32	1.7t/日	－	2.2t/日	1.8t/日																																																																																	
35	1.8t/日	－	2.8t/日	1.9t/日																																																																																	
38	1.9t/日	－	－	2.1t/日																																																																																	
41	2.0t/日	－	－	2.2t/日																																																																																	
51	2.4t/日	－	－	2.6t/日																																																																																	
鉄筋径（mm）	作業日当り標準作業量																																																																																				
16～25	132箇所/日																																																																																				
29～32	86箇所/日																																																																																				
35	75箇所/日																																																																																				
38	69箇所/日																																																																																				
41	64箇所/日																																																																																				
51	51箇所/日																																																																																				
鉄筋径（mm）	作業日当り標準作業量																																																																																				
	グラウト	ねじ加工																																																																																			
13	119箇所/日	246箇所/日																																																																																			
16～25	103箇所/日	186箇所/日																																																																																			
29～32	90箇所/日	156箇所/日																																																																																			
36	87箇所/日	147箇所/日																																																																																			
38	85箇所/日	134箇所/日																																																																																			
41	82箇所/日	134箇所/日																																																																																			
51	78箇所/日	123箇所/日																																																																																			

1 - 204

212

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁

改定前

改定後

1-276

工 種 名	設 定 内 容										
側溝清掃工 (単独作業)	① 側溝清掃 (単独作業) 清掃作業 …… 該当工種の計算式を参照。 ② 側溝清掃 (単独作業) 移動 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>195 km/日</td></tr> </table> (注) 排水管清掃車の運転日当り運転時間は、6.5hとする。 ③ 側溝蓋設置・撤去 <table border="1"> <tr> <td>側溝蓋質量</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>40kg 以上 80kg 以下</td><td>333 枚/日</td></tr> <tr> <td>80kg を超え 120kg 以下</td><td>250 枚/日</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	195 km/日	側溝蓋質量	作業日当り標準作業量	40kg 以上 80kg 以下	333 枚/日	80kg を超え 120kg 以下	250 枚/日		
作業日当り標準作業量	195 km/日										
側溝蓋質量	作業日当り標準作業量										
40kg 以上 80kg 以下	333 枚/日										
80kg を超え 120kg 以下	250 枚/日										
側溝清掃工 (人力清掃工)	① 側溝清掃 (人力清掃工) <table border="1"> <tr> <td>側溝蓋規格</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>無蓋</td><td>63 m/日</td></tr> <tr> <td>有蓋 コンクリート蓋</td><td>26 m/日</td></tr> <tr> <td>有蓋 鋼蓋 (ボルト締無)</td><td>23 m/日</td></tr> <tr> <td>有蓋 鋼蓋 (ボルト締有)</td><td>15 m/日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	側溝蓋規格	作業日当り標準作業量	無蓋	63 m/日	有蓋 コンクリート蓋	26 m/日	有蓋 鋼蓋 (ボルト締無)	23 m/日	有蓋 鋼蓋 (ボルト締有)	15 m/日
側溝蓋規格	作業日当り標準作業量										
無蓋	63 m/日										
有蓋 コンクリート蓋	26 m/日										
有蓋 鋼蓋 (ボルト締無)	23 m/日										
有蓋 鋼蓋 (ボルト締有)	15 m/日										
集水樹清掃工 (単独作業)	該当工種の計算式を参照。										
集水樹清掃工 (人力清掃工)	① 集水樹清掃工 (人力清掃工) <table border="1"> <tr> <td>蓋の有無及び土砂厚</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>有蓋 25cm 未満</td><td>13 箇所/日</td></tr> <tr> <td>有蓋 25cm 以上</td><td>9.9 箇所/日</td></tr> <tr> <td>無蓋 25cm 未満</td><td>23 箇所/日</td></tr> <tr> <td>無蓋 25cm 以上</td><td>12 箇所/日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	蓋の有無及び土砂厚	作業日当り標準作業量	有蓋 25cm 未満	13 箇所/日	有蓋 25cm 以上	9.9 箇所/日	無蓋 25cm 未満	23 箇所/日	無蓋 25cm 以上	12 箇所/日
蓋の有無及び土砂厚	作業日当り標準作業量										
有蓋 25cm 未満	13 箇所/日										
有蓋 25cm 以上	9.9 箇所/日										
無蓋 25cm 未満	23 箇所/日										
無蓋 25cm 以上	12 箇所/日										
トンネル清掃工	該当工種の計算式を参照。										
トンネル照明器具清掃工	① トンネル照明器具清掃工 <table border="1"> <tr> <td>作 業 種 別</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>表面清掃</td><td>117 灯/日</td></tr> <tr> <td>表面及び内面清掃</td><td>60 灯/日</td></tr> </table>	作 業 種 別	作業日当り標準作業量	表面清掃	117 灯/日	表面及び内面清掃	60 灯/日				
作 業 種 別	作業日当り標準作業量										
表面清掃	117 灯/日										
表面及び内面清掃	60 灯/日										
トンネル漏水対策工	① 面導水 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>34 m²/日</td></tr> </table> ② 線導水 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>10 m/日</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	34 m ² /日	作業日当り標準作業量	10 m/日						
作業日当り標準作業量	34 m ² /日										
作業日当り標準作業量	10 m/日										

1-276

工 種 名	設 定 内 容														
側溝清掃工 (単独作業)	① 側溝清掃 (単独作業) 清掃作業 …… 該当工種の計算式を参照。 ② 側溝清掃 (単独作業) 移動 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>195 km/日</td></tr> </table> (注) 排水管清掃車の運転日当り運転時間は、6.5hとする。 ③ 側溝蓋設置・撤去 <table border="1"> <tr> <td>側溝蓋質量</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>40kg 以上 80kg 以下</td><td>333 枚/日</td></tr> <tr> <td>80kg を超え 120kg 以下</td><td>250 枚/日</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	195 km/日	側溝蓋質量	作業日当り標準作業量	40kg 以上 80kg 以下	333 枚/日	80kg を超え 120kg 以下	250 枚/日						
作業日当り標準作業量	195 km/日														
側溝蓋質量	作業日当り標準作業量														
40kg 以上 80kg 以下	333 枚/日														
80kg を超え 120kg 以下	250 枚/日														
側溝清掃工 (人力清掃工)	① 側溝清掃 (人力清掃工) <table border="1"> <tr> <td>側溝蓋規格</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>無蓋</td><td>63 m/日</td></tr> <tr> <td>有蓋 コンクリート蓋</td><td>26 m/日</td></tr> <tr> <td>有蓋 鋼蓋 (ボルト締無)</td><td>23 m/日</td></tr> <tr> <td>有蓋 鋼蓋 (ボルト締有)</td><td>15 m/日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	側溝蓋規格	作業日当り標準作業量	無蓋	63 m/日	有蓋 コンクリート蓋	26 m/日	有蓋 鋼蓋 (ボルト締無)	23 m/日	有蓋 鋼蓋 (ボルト締有)	15 m/日				
側溝蓋規格	作業日当り標準作業量														
無蓋	63 m/日														
有蓋 コンクリート蓋	26 m/日														
有蓋 鋼蓋 (ボルト締無)	23 m/日														
有蓋 鋼蓋 (ボルト締有)	15 m/日														
集水樹清掃工 (単独作業)	該当工種の計算式を参照。														
集水樹清掃工 (人力清掃工)	① 集水樹清掃工 (人力清掃工) <table border="1"> <tr> <td>蓋の有無及び土砂厚</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>有蓋 25cm 未満</td><td>13 箇所/日</td></tr> <tr> <td>有蓋 25cm 以上</td><td>9.9 箇所/日</td></tr> <tr> <td>無蓋 25cm 未満</td><td>23 箇所/日</td></tr> <tr> <td>無蓋 25cm 以上</td><td>12 箇所/日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	蓋の有無及び土砂厚	作業日当り標準作業量	有蓋 25cm 未満	13 箇所/日	有蓋 25cm 以上	9.9 箇所/日	無蓋 25cm 未満	23 箇所/日	無蓋 25cm 以上	12 箇所/日				
蓋の有無及び土砂厚	作業日当り標準作業量														
有蓋 25cm 未満	13 箇所/日														
有蓋 25cm 以上	9.9 箇所/日														
無蓋 25cm 未満	23 箇所/日														
無蓋 25cm 以上	12 箇所/日														
トンネル清掃工	該当工種の計算式を参照。														
トンネル照明器具清掃工	① トンネル照明器具清掃工 <table border="1"> <tr> <td>作 業 種 別</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>表面清掃</td><td>117 灯/日</td></tr> <tr> <td>表面及び内面清掃</td><td>60 灯/日</td></tr> </table>	作 業 種 別	作業日当り標準作業量	表面清掃	117 灯/日	表面及び内面清掃	60 灯/日								
作 業 種 別	作業日当り標準作業量														
表面清掃	117 灯/日														
表面及び内面清掃	60 灯/日														
トンネル漏水対策工	① 面導水 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>34 m²/日</td></tr> </table> ② 線導水 (溝切り工) <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>8.6 m/日</td></tr> </table> (注) コンクリート敷の集積場所までの現場内小運搬180m程度を含む。 ③ 線導水 (導水樋工) <table border="1"> <tr> <td>導水幅</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>300mm 以下</td><td>14 m/日</td></tr> <tr> <td>300mm 超え 500mm 以下</td><td>13 m/日</td></tr> <tr> <td>500mm 超え 700mm 以下</td><td>12 m/日</td></tr> <tr> <td>700mm 超え 1,000mm 以下</td><td>11 m/日</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	34 m ² /日	作業日当り標準作業量	8.6 m/日	導水幅	作業日当り標準作業量	300mm 以下	14 m/日	300mm 超え 500mm 以下	13 m/日	500mm 超え 700mm 以下	12 m/日	700mm 超え 1,000mm 以下	11 m/日
作業日当り標準作業量	34 m ² /日														
作業日当り標準作業量	8.6 m/日														
導水幅	作業日当り標準作業量														
300mm 以下	14 m/日														
300mm 超え 500mm 以下	13 m/日														
500mm 超え 700mm 以下	12 m/日														
700mm 超え 1,000mm 以下	11 m/日														

令和8年7月20日以降適用

1-276

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁

改定前

改定後

⑤ 市場単価の1日当り標準施工量

本項に記載した日当り作業量は、市場単価への移行にともない削除された工種の標準作業量を定めたものである。
設定した作業量は、あくまでも標準施工の場合であるので、当該工種の施工条件、施工法、制約条件等を十分考慮の上適用の可否を検討し、使用するものとする。

1. 鉄 筋 工

表1.1

	規格・仕様	単位	施工数量
1	一般構造物	t	3.5
2	切梁のある構造物	t	3.0
3	地下構造物	t	
4	橋梁用床版	t	4.0
5	場所打杭用かご筋	t	6.5
6	R/C場所打ホロースラブ	t	2.5
7	差筋及び杭頭処理	t	3.5
8	一般構造物 (太径鉄筋混合)	t	5.0
9	切梁のある構造物 (太径鉄筋混合)	t	4.0
10	地下構造物 (太径鉄筋混合)	t	4.0
11	場所打杭用かご筋 (太径鉄筋混合)	t	9.0

⑤ 市場単価の1日当り標準施工量

本項に記載した日当り作業量は、市場単価への移行にともない削除された工種の標準作業量を定めたものである。
設定した作業量は、あくまでも標準施工の場合であるので、当該工種の施工条件、施工法、制約条件等を十分考慮の上適用の可否を検討し、使用するものとする。

1. インターロッキングブロック工

表 1.1

	規格・仕様	単位	施工数量
設 置	直線配置	ブロック厚 6 cm	m2
		ブロック厚 8 cm	m2
	曲線配置	ブロック厚 6 cm	m2
		ブロック厚 8 cm	m2
		直線配置 3 色以上による色合わせ	m2
		曲線配置 3 色以上による色合わせ	m2
撤 去	再使用目的の撤去	ブロック厚 6 cm、8 cm	m2
	とりこわし	ブロック厚 6 cm、8 cm	m2

一部削除



1-299

307

1-299

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表																						
頁	改定前	改定後																				
1-300	2. 鉄筋工 (ガス圧接工) 表2. 1 <table><tr><th>規格・仕様</th><th>単位</th><th>施工数量</th></tr><tr><td rowspan="9">ガス圧接工 〔 手動 (半自動) 自 動 〕</td><td>D19+D19 箇所</td><td rowspan="3">350</td></tr><tr><td>D22+D22 箇所</td></tr><tr><td>D25+D25 箇所</td></tr><tr><td>D29+D29 箇所</td><td>310</td></tr><tr><td>D32+D32 箇所</td><td>280</td></tr><tr><td>D35+D35 箇所</td><td>240</td></tr><tr><td>D38+D38 箇所</td><td>160</td></tr><tr><td>D41+D41 箇所</td><td>150</td></tr><tr><td>D51+D51 箇所</td><td>130</td></tr></table> 1-300 308	規格・仕様	単位	施工数量	ガス圧接工 〔 手動 (半自動) 自 動 〕	D19+D19 箇所	350	D22+D22 箇所	D25+D25 箇所	D29+D29 箇所	310	D32+D32 箇所	280	D35+D35 箇所	240	D38+D38 箇所	160	D41+D41 箇所	150	D51+D51 箇所	130	削除
規格・仕様	単位	施工数量																				
ガス圧接工 〔 手動 (半自動) 自 動 〕	D19+D19 箇所	350																				
	D22+D22 箇所																					
	D25+D25 箇所																					
	D29+D29 箇所	310																				
	D32+D32 箇所	280																				
	D35+D35 箇所	240																				
	D38+D38 箇所	160																				
	D41+D41 箇所	150																				
	D51+D51 箇所	130																				

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁 改定前 改定後

3. インターロッキングブロック工

表 3.1

規 格 ・ 仕 様		単 位	施 工 数 量
設 置	直線配置	ブロック厚6cm	㎡
		ブロック厚8cm	㎡
	曲線配置	ブロック厚6cm	㎡
		ブロック厚8cm	㎡
撤 去	直線配置3色 以上による色 合わせ	ブロック厚6cm	㎡
		ブロック厚8cm	㎡
	曲線配置3色 以上による色 合わせ	ブロック厚6cm	㎡
		ブロック厚8cm	㎡
再使用目的の 撤去	ブロック厚 6cm, 8cm	㎡	200
	ブロック厚 6cm, 8cm	㎡	300

1-301

309

1-301



1-299へ

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁 改定前 改定後

5. ガードパイプ設置工

表5.1 設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	施 工 数 量
土中建込	Gp-Ap-2E	m	70
	Gp-Bp-2E	m	
	Gp-Cp-2E	m	
コンクリート建込	Gp-Ap-2B	m	40
	Gp-Bp-2B	m	
	Gp-Cp-2B	m	

表5.2 撤去

区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	施 工 数 量
土中建込用 撤 去	Gp-Ap-2E	m	135
	Gp-Bp-2E	m	
	Gp-Cp-2E	m	
コンクリート建込用 撤 去	Gp-Ap-2B	m	80
	Gp-Bp-2B	m	
	Gp-Cp-2B	m	

表5.3 部材設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	施 工 数 量
パイプ設置	歩車道境界用 Ap・Bp・Cp 種	m	80
	支柱間隔 2m		

表5.4 部材撤去

区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	施 工 数 量
パイプ撤去	歩車道境界用 Ap・Bp・Cp 種	m	150
	支柱間隔 2m		

1-306

3. ガードパイプ設置工

表3.1 設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	施 工 数 量
土中建込	Gp-Ap-2E	m	70
	Gp-Bp-2E	m	
	Gp-Cp-2E	m	
コンクリート建込	Gp-Ap-2B	m	40
	Gp-Bp-2B	m	
	Gp-Cp-2B	m	

表3.2 撤去

区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	施 工 数 量
土中建込用 撤 去	Gp-Ap-2E	m	135
	Gp-Bp-2E	m	
	Gp-Cp-2E	m	
コンクリート建込用 撤 去	Gp-Ap-2B	m	80
	Gp-Bp-2B	m	
	Gp-Cp-2B	m	

表3.3 部材設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	施 工 数 量
パイプ設置	歩車道境界用 Ap・Bp・Cp 種	m	80
	支柱間隔 2m		

表3.4 部材撤去

区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	施 工 数 量
パイプ撤去	歩車道境界用 Ap・Bp・Cp 種	m	150
	支柱間隔 2m		

314

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁

改定前

改定後

7. 防護柵設置工(落石防護柵)

表7.1 落石防護柵 (ロープ・金網設置工 間隔保持材付き)

区 分	規格・仕様	単位	施工数量	
			設置	撤去
柵高 1.50m	ロープ本数 5本	m	20	40
柵高 2.00m	ロープ本数 7本	m	15	30
柵高 2.50m	ロープ本数 8本	m	10	20
柵高 3.00m	ロープ本数 10本	m	9	18
柵高 3.50m	ロープ本数 12本	m	8	16
柵高 4.00m	ロープ本数 13本	m	6	12

表7.2 耐雪型落石防護柵 (ロープ・金網設置工 上弦材付き)

区 分	規格・仕様	単位	施工数量	
			設置	撤去
柵高 1.50m	ロープ本数 5本	m	15	30
柵高 2.00m	ロープ本数 7本	m	12	24
柵高 2.50m	ロープ本数 8本	m	8	16
柵高 3.00m	ロープ本数 10本	m	7	14

表7.3 ステールロープ設置工

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
ステールロープ	岩盤用アンカー込み	本	15

5. 防護柵設置工(落石防護柵)

表5.1 落石防護柵 (ロープ・金網設置工 間隔保持材付き)

区 分	規格・仕様	単位	施工数量	
			設置	撤去
柵高 1.50m	ロープ本数 5本	m	20	40
柵高 2.00m	ロープ本数 7本	m	15	30
柵高 2.50m	ロープ本数 8本	m	10	20
柵高 3.00m	ロープ本数 10本	m	9	18
柵高 3.50m	ロープ本数 12本	m	8	16
柵高 4.00m	ロープ本数 13本	m	6	12

表5.2 耐雪型落石防護柵 (ロープ・金網設置工 上弦材付き)

区 分	規格・仕様	単位	施工数量	
			設置	撤去
柵高 1.50m	ロープ本数 5本	m	15	30
柵高 2.00m	ロープ本数 7本	m	12	24
柵高 2.50m	ロープ本数 8本	m	8	16
柵高 3.00m	ロープ本数 10本	m	7	14

表5.3 ステールロープ設置工

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
ステールロープ	岩盤用アンカー込み	本	15

1-309

317

1-309

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

1-310

改定前

8. 防護柵設置工（落石防止柵）

表8.1 金網・ロープ設置

規格・仕様		単位	施工数量
亜鉛メッキ3, 4種（Z-GS3, 4） 線径 2.6mm		m ²	130
亜鉛メッキ3, 4種（Z-GS3, 4） 線径 3.2mm		m ²	110
亜鉛メッキ3, 4種（Z-GS3, 4） 線径 4.0mm		m ²	90
亜鉛メッキ3, 4種（Z-GS3, 4） 線径 5.0mm		m ²	75

表8.2 アンカー設置

規格・仕様		単位	施工数量	
岩 盤 用	D 22mm × 長 1,000mm	箇所	15	
	D 25mm × 長 1,000mm	箇所		
	D 29mm × 長 1,000mm	箇所		
	D 32mm × 長 1,000mm	箇所		
土 中 用	羽根付アンカー	径 25mm×長 1,500mm	箇所	18
	高耐力アンカー （プレート羽付）	アンカー有効長 1,500mm	箇所	6
		アンカー有効長 2,000mm	箇所	
	高耐力アンカー （溝形鋼羽付）	アンカー有効長 1,500mm	箇所	4
		アンカー有効長 2,000mm	箇所	

表8.3 支柱設置

規格・仕様		単位	施工数量
ポケット式支柱 （アンカー固定式）	支柱高 2.0m	箇所	6
	支柱高 2.5m	箇所	
	支柱高 3.0m	箇所	
	支柱高 3.5m	箇所	
	支柱高 4.0m	箇所	

改定後

6. 防護柵設置工（落石防止柵）

表6.1 金網・ロープ設置

規格・仕様		単位	施工数量
亜鉛メッキ3, 4種（Z-GS3, 4） 線径 2.6mm		m ²	130
亜鉛メッキ3, 4種（Z-GS3, 4） 線径 3.2mm		m ²	110
亜鉛メッキ3, 4種（Z-GS3, 4） 線径 4.0mm		m ²	90
亜鉛メッキ3, 4種（Z-GS3, 4） 線径 5.0mm		m ²	75

表6.2 アンカー設置

規格・仕様		単位	施工数量	
岩 盤 用	D 22mm × 長 1,000mm	箇所	15	
	D 25mm × 長 1,000mm	箇所		
	D 29mm × 長 1,000mm	箇所		
	D 32mm × 長 1,000mm	箇所		
土 中 用	羽根付アンカー	径 25mm×長 1,500mm	箇所	18
	高耐力アンカー （プレート羽付）	アンカー有効長 1,500mm	箇所	6
		アンカー有効長 2,000mm	箇所	
	高耐力アンカー （溝形鋼羽付）	アンカー有効長 1,500mm	箇所	4
		アンカー有効長 2,000mm	箇所	

表6.3 支柱設置

規格・仕様		単位	施工数量
ポケット式支柱 （アンカー固定式）	支柱高 2.0m	箇所	6
	支柱高 2.5m	箇所	
	支柱高 3.0m	箇所	
	支柱高 3.5m	箇所	
	支柱高 4.0m	箇所	

1-310

318

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁	改定前	改定後																								
1-325	18. 軟弱地盤処理工 表 18. 1 <table><tr><th>区 分</th><th>規 格 ・ 仕 様</th><th>単位</th><th>施工数量</th></tr><tr><td rowspan="3">サンドドレーン工</td><td>打設長 10m未満</td><td>m</td><td>440</td></tr><tr><td>打設長 10m以上 20m未満</td><td>m</td><td>390</td></tr><tr><td>打設長 20m以上 35m未満</td><td>m</td><td>390</td></tr><tr><td rowspan="3">サンドコンパクションバイブル工</td><td>打設長 10m未満</td><td>m</td><td>180</td></tr><tr><td>打設長 10m以上 20m未満</td><td>m</td><td>170</td></tr><tr><td>打設長 20m以上 35m未満</td><td>m</td><td>170</td></tr></table>	区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量	サンドドレーン工	打設長 10m未満	m	440	打設長 10m以上 20m未満	m	390	打設長 20m以上 35m未満	m	390	サンドコンパクションバイブル工	打設長 10m未満	m	180	打設長 10m以上 20m未満	m	170	打設長 20m以上 35m未満	m	170	→ 削除
区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量																							
サンドドレーン工	打設長 10m未満	m	440																							
	打設長 10m以上 20m未満	m	390																							
	打設長 20m以上 35m未満	m	390																							
サンドコンパクションバイブル工	打設長 10m未満	m	180																							
	打設長 10m以上 20m未満	m	170																							
	打設長 20m以上 35m未満	m	170																							
	333 1 - 325																									

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

頁	改定前	改定後																																				
1-326	19. 橋 面 防 水 工 表 19. 1 <table><tr><th>区 分</th><th>規格・仕様</th><th>単位</th><th>施工数量</th></tr><tr><td rowspan="2">シート系防水（アスファルト系）</td><td>新 設</td><td>m²</td><td>220</td></tr><tr><td>補 修</td><td>m²</td><td>150</td></tr><tr><td rowspan="2">塗膜系防水（アスファルト系）</td><td>新 設</td><td>m²</td><td>250</td></tr><tr><td>補 修</td><td>m²</td><td>170</td></tr></table> 1-326	区 分	規格・仕様	単位	施工数量	シート系防水（アスファルト系）	新 設	m ²	220	補 修	m ²	150	塗膜系防水（アスファルト系）	新 設	m ²	250	補 修	m ²	170	16. 橋 面 防 水 工 表 16. 1 <table><tr><th>区 分</th><th>規格・仕様</th><th>単位</th><th>施工数量</th></tr><tr><td rowspan="2">シート系防水（アスファルト系）</td><td>新 設</td><td>m2</td><td>220</td></tr><tr><td>補 修</td><td>m2</td><td>150</td></tr><tr><td rowspan="2">塗膜系防水（アスファルト系）</td><td>新 設</td><td>m2</td><td>250</td></tr><tr><td>補 修</td><td>m2</td><td>170</td></tr></table> 334	区 分	規格・仕様	単位	施工数量	シート系防水（アスファルト系）	新 設	m2	220	補 修	m2	150	塗膜系防水（アスファルト系）	新 設	m2	250	補 修	m2	170
	区 分	規格・仕様	単位	施工数量																																		
シート系防水（アスファルト系）	新 設	m ²	220																																			
	補 修	m ²	150																																			
塗膜系防水（アスファルト系）	新 設	m ²	250																																			
	補 修	m ²	170																																			
区 分	規格・仕様	単位	施工数量																																			
シート系防水（アスファルト系）	新 設	m2	220																																			
	補 修	m2	150																																			
塗膜系防水（アスファルト系）	新 設	m2	250																																			
	補 修	m2	170																																			

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕県版 改定対照表

1-328

改定前

21. 鉄筋挿入工

表 21. 1

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
現場条件Ⅰ	$L \leq 2.0\text{m}$	本	14
	$2.0\text{m} < L \leq 5.0\text{m}$	本	7
現場条件Ⅱ	$L \leq 2.0\text{m}$	本	8
	$2.0\text{m} < L \leq 5.0\text{m}$	本	4
	削孔機械の上下移動	回	2
	仮設足場の設置・撤去	空 m3	40
現場条件Ⅲ	$L \leq 2.0\text{m}$	本	8

22. コンクリート表面処理工

表 22. 1

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
コンクリート表面処理		m ²	150

1-328

改定後

18. 鉄筋挿入工

表 18. 1

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
現場条件Ⅰ	$L \leq 2.0\text{m}$	本	14
	$2.0\text{m} < L \leq 5.0\text{m}$	本	7
現場条件Ⅱ	$L \leq 2.0\text{m}$	本	8
	$2.0\text{m} < L \leq 5.0\text{m}$	本	4
	削孔機械の上下移動	回	2
	仮設足場の設置・撤去	空 m3	40
現場条件Ⅲ	$L \leq 2.0\text{m}$	本	8

19. コンクリート表面処理工

表 19. 1

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
コンクリート表面処理		m2	150

336

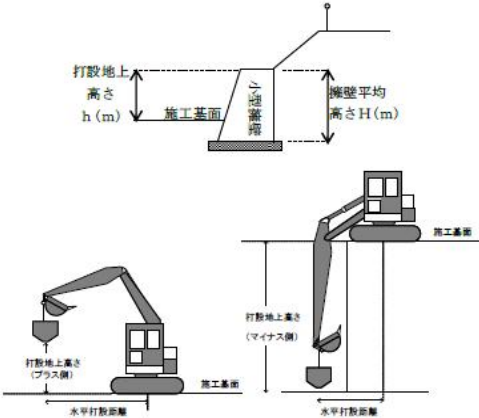
令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1～3 改定対照表

頁	改定前	改定後
目次Ⅱ	③-2 コンクリート工(深礎工)・・・Ⅱ-3-③-10 ④ ニューマチックケーソン工・・・Ⅱ-3-④-1 ⑤ 基礎工(鋼管矢板基礎工)・・・Ⅱ-3-⑤-1 ⑤-1 打撃工法・・・Ⅱ-3-⑤-1 ⑤-2 中掘工法・・・Ⅱ-3-⑤-23 ⑥ 泥水運搬工・・・Ⅱ-3-⑥-1 第4章 コンクリート工 ① コンクリート工・・・Ⅱ-4-①-1 ② 型枠工・・・Ⅱ-4-②-1 ②-1 型枠工・・・Ⅱ-4-②-1 ②-2 型枠工(省力化構造)・・・Ⅱ-4-②-6 ③ 張りコンクリート工・・・Ⅱ-4-③-1 第5章 仮設工 ① 仮設工・・・Ⅱ-5-①-1 ② 鋼矢板(H形鋼)工・・・Ⅱ-5-②-1 ②-1 バイプロハンマ工・・・Ⅱ-5-②-1 ②-2 バイプロハンマ工 (軽量鋼矢板打込引抜工)・・・Ⅱ-5-②-32 ②-3 油圧圧入引抜工・・・Ⅱ-5-②-38 ②-4 プレボーリング・・・Ⅱ-5-②-62 ③ 鋼矢板工(アースオーガ併用圧入工)・・・Ⅱ-5-③-1 ④ 鋼矢板(H形鋼)工(クレーン引抜工)・・・Ⅱ-5-④-1 ⑤ 鋼矢板施工法選定表(参考)・・・Ⅱ-5-⑤-1 ⑤-1 鋼矢板打込施工法選定表(参考)・・・Ⅱ-5-⑤-1 ⑤-2 鋼矢板・H形鋼 引抜施工法選定フロー(参考)・・・Ⅱ-5-⑤-5 ⑥ 仮設材設置撤去工・・・Ⅱ-5-⑥-1 ⑦ 足場支保工・・・Ⅱ-5-⑦-1 ⑦-1 足場工・・・Ⅱ-5-⑦-1 ⑦-2 支保工・・・Ⅱ-5-⑦-5 ⑧ 締切排水工・・・Ⅱ-5-⑧-1 ⑨ ウェルポイント工・・・Ⅱ-5-⑨-1 ⑩ 土のう工・・・Ⅱ-5-⑩-1 ⑩-1 土のう工・・・Ⅱ-5-⑩-1 ⑩-2 大型土のう工・・・Ⅱ-5-⑩-3 ⑪ 仮橋・仮橋脚工・・・Ⅱ-5-⑪-1 ⑫ 汚濁防止フェンス工・・・Ⅱ-5-⑫-1 ⑬ 仮囲い設置・撤去工・・・Ⅱ-5-⑬-1 ⑬-1 仮囲い設置・撤去工・・・Ⅱ-5-⑬-1 ⑬-2 雪寒仮囲い工・・・Ⅱ-5-⑬-3 ⑭ 仮設防護柵工(切土及び発破防護柵工)・・・Ⅱ-5-⑭-1 ⑮ 濁水処理工(一般土木工事)・・・Ⅱ-5-⑮-1 ⑯ 敷鉄板設置・撤去工・・・Ⅱ-5-⑯-1 ⑰ 防塵処理工・・・Ⅱ-5-⑰-1 ⑱ 仮設電力設備工・・・Ⅱ-5-⑱-1 ⑲ グラフによる標準的な仮設電力設備の積算	③-2 コンクリート工(深礎工)・・・Ⅱ-3-③-10 ④ ニューマチックケーソン工・・・Ⅱ-3-④-1 ⑤ 基礎工(鋼管矢板基礎工)・・・Ⅱ-3-⑤-1 ⑤-1 打撃工法・・・Ⅱ-3-⑤-1 ⑤-2 中掘工法・・・Ⅱ-3-⑤-23 ⑥ 泥水運搬工・・・Ⅱ-3-⑥-1 第4章 コンクリート工 ① コンクリート工・・・Ⅱ-4-①-1 ② 型枠工・・・Ⅱ-4-②-1 ②-1 型枠工・・・Ⅱ-4-②-1 ②-2 型枠工(省力化構造)・・・Ⅱ-4-②-6 ③ 張りコンクリート工・・・Ⅱ-4-③-1 ④ 鉄筋工・・・Ⅱ-4-④-1 第5章 仮設工 ① 仮設工・・・Ⅱ-5-①-1 ② 鋼矢板(H形鋼)工・・・Ⅱ-5-②-1 ②-1 バイプロハンマ工・・・Ⅱ-5-②-1 ②-2 バイプロハンマ工 (軽量鋼矢板打込引抜工)・・・Ⅱ-5-②-32 ②-3 油圧圧入引抜工・・・Ⅱ-5-②-38 ②-4 プレボーリング・・・Ⅱ-5-②-62 ③ 鋼矢板工(アースオーガ併用圧入工)・・・Ⅱ-5-③-1 ④ 鋼矢板(H形鋼)工(クレーン引抜工)・・・Ⅱ-5-④-1 ⑤ 鋼矢板施工法選定表(参考)・・・Ⅱ-5-⑤-1 ⑤-1 鋼矢板打込施工法選定表(参考)・・・Ⅱ-5-⑤-1 ⑤-2 鋼矢板・H形鋼 引抜施工法選定フロー(参考)・・・Ⅱ-5-⑤-5 ⑥ 仮設材設置撤去工・・・Ⅱ-5-⑥-1 ⑦ 足場支保工・・・Ⅱ-5-⑦-1 ⑦-1 足場工・・・Ⅱ-5-⑦-1 ⑦-2 支保工・・・Ⅱ-5-⑦-5 ⑧ 締切排水工・・・Ⅱ-5-⑧-1 ⑨ ウェルポイント工・・・Ⅱ-5-⑨-1 ⑩ 土のう工・・・Ⅱ-5-⑩-1 ⑩-1 土のう工・・・Ⅱ-5-⑩-1 ⑩-2 大型土のう工・・・Ⅱ-5-⑩-3 ⑪ 仮橋・仮橋脚工・・・Ⅱ-5-⑪-1 ⑫ 汚濁防止フェンス工・・・Ⅱ-5-⑫-1 ⑬ 仮囲い設置・撤去工・・・Ⅱ-5-⑬-1 ⑬-1 仮囲い設置・撤去工・・・Ⅱ-5-⑬-1 ⑬-2 雪寒仮囲い工・・・Ⅱ-5-⑬-3 ⑭ 仮設防護柵工(切土及び発破防護柵工)・・・Ⅱ-5-⑭-1 ⑮ 濁水処理工(一般土木工事)・・・Ⅱ-5-⑮-1 ⑯ 敷鉄板設置・撤去工・・・Ⅱ-5-⑯-1 ⑰ 防塵処理工・・・Ⅱ-5-⑰-1 ⑱ 仮設電力設備工・・・Ⅱ-5-⑱-1 ⑲ グラフによる標準的な仮設電力設備の積算
	第Ⅵ編 土木工事標準単価及び市場単価 第1章 土木工事標準単価 ① 区画線工・・・Ⅵ-1-①-1 ② 高視認性区画線工・・・Ⅵ-1-②-1 ③ 橋梁塗装工・・・Ⅵ-1-③-1 ④ 構造物とりこわし工・・・Ⅵ-1-④-1 ⑤ コンクリートブロック積工・・・Ⅵ-1-⑤-1 ⑥ 排水構造物工・・・Ⅵ-1-⑥-1 第2章 市場単価 ① 鉄路工・・・Ⅵ-2-①-1 ①-1 鉄路工(太径鉄路含む)・・・Ⅵ-2-①-1 ①-2 鉄路工(ガス圧接工)・・・Ⅵ-2-①-10 ② インターロッキングブロック工・・・Ⅵ-2-②-1 ③ 防護柵設置工・・・Ⅵ-2-③-1 ③-1 防護柵設置工(ガードレール)・・・Ⅵ-2-③-1 ③-2 防護柵設置工(ガードパイプ)・・・Ⅵ-2-③-16 ③-3 防護柵設置工(横断・転落防止柵)・・・Ⅵ-2-③-24 ③-4 防護柵設置工(落石防護柵)・・・Ⅵ-2-③-32 ③-5 防護柵設置工(落石防止柵)・・・Ⅵ-2-③-41 ④ 法面工・・・Ⅵ-2-④-1 ④-1 法面工・・・Ⅵ-2-④-1 ④-2 吹付砕石工・・・Ⅵ-2-④-14 ⑤ 道路植栽工・・・Ⅵ-2-⑤-1 ⑥ 橋梁付属物工・・・Ⅵ-2-⑥-1 ⑥-1 橋梁用伸縮継手装置設置工・・・Ⅵ-2-⑥-1 ⑥-2 橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工・・・Ⅵ-2-⑥-11 ⑦ 薄層カラー舗装工・・・Ⅵ-2-⑦-1 ⑧ 道路標識設置工・・・Ⅵ-2-⑧-1 ⑨ 道路付属物設置工・・・Ⅵ-2-⑨-1 ⑩ 公園植栽工・・・Ⅵ-2-⑩-1 ⑪ 軟弱地盤処理工・・・Ⅵ-2-⑪-1 ⑫ 橋面防水工・・・Ⅵ-2-⑫-1 ⑬ グルーピング工・・・Ⅵ-2-⑬-1 ⑭ 鉄筋挿入工(ロックボルト工)・・・Ⅵ-2-⑭-1 ⑮ コンクリート表面処理工 (ウオータージェット工)・・・Ⅵ-2-⑮-1	第Ⅵ編 土木工事標準単価及び市場単価 第1章 土木工事標準単価 ① 区画線工・・・Ⅵ-1-①-1 ② 高視認性区画線工・・・Ⅵ-1-②-1 ③ 橋梁塗装工・・・Ⅵ-1-③-1 ④ 構造物とりこわし工・・・Ⅵ-1-④-1 ⑤ コンクリートブロック積工・・・Ⅵ-1-⑤-1 ⑥ 排水構造物工・・・Ⅵ-1-⑥-1 第2章 市場単価 ② インターロッキングブロック工・・・Ⅵ-2-②-1 ③ 防護柵設置工・・・Ⅵ-2-③-1 ③-1 防護柵設置工(ガードレール)・・・Ⅵ-2-③-1 ③-2 防護柵設置工(ガードパイプ)・・・Ⅵ-2-③-16 ③-3 防護柵設置工(横断・転落防止柵)・・・Ⅵ-2-③-24 ③-4 防護柵設置工(落石防護柵)・・・Ⅵ-2-③-32 ③-5 防護柵設置工(落石防止柵)・・・Ⅵ-2-③-41 ④ 法面工・・・Ⅵ-2-④-1 ④-1 法面工・・・Ⅵ-2-④-1 ④-2 吹付砕石工・・・Ⅵ-2-④-14 ⑤ 道路植栽工・・・Ⅵ-2-⑤-1 ⑥ 橋梁付属物工・・・Ⅵ-2-⑥-1 ⑥-1 橋梁用伸縮継手装置設置工・・・Ⅵ-2-⑥-1 ⑥-2 橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工・・・Ⅵ-2-⑥-11 ⑦ 薄層カラー舗装工・・・Ⅵ-2-⑦-1 ⑧ 道路標識設置工・・・Ⅵ-2-⑧-1 ⑨ 道路付属物設置工・・・Ⅵ-2-⑨-1 ⑩ 公園植栽工・・・Ⅵ-2-⑩-1 ⑫ 橋面防水工・・・Ⅵ-2-⑫-1 ⑬ グルーピング工・・・Ⅵ-2-⑬-1 ⑭ 鉄筋挿入工(ロックボルト工)・・・Ⅵ-2-⑭-1 ⑮ コンクリート表面処理工 (ウオータージェット工)・・・Ⅵ-2-⑮-1

令和8年7月20日以降適用

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表											
頁	改定前	改定後									
Ⅱ-2-①-18	2-7-2 吸出し防止材 吸出し防止材が必要な場合は、次表により計上する。 ただし、吸出し防止材の使用数量は、次式による。 使用数量（m2）＝設計数量（m2）×（1＋K）……式7. 1 K：ロス率（＋0.08） <table><tr><th colspan="2">表2. 5 吸出し防止材敷設歩掛</th><th>（100m2当り）</th></tr><tr><th>名 称</th><th>単位</th><th>数量</th></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>人</td><td>0.5</td></tr></table> 2-8 中 詰 工 中詰工歩掛は、「プレキャスト法枠工」の中詰工による。 2-9 型 枠 工 型枠の製作・設置・撤去は、「第Ⅱ編第4章②-1型枠工」の小型構造物により計上する。 ただし、ラフデレーンクレーンが必要となる場合は、0.8日（100m2当り）加算する。 なお、ラフデレーンクレーンの規格は、表2.2による。 2-10 鉄 筋 工 鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章市場単価①-1鉄筋工」により別途計上する。 2-11 足 場 工 足場が必要な場合は、「第Ⅱ編第5章⑦-1足場工」により別途計上する。	表2. 5 吸出し防止材敷設歩掛		（100m2当り）	名 称	単位	数量	普 通 作 業 員	人	0.5	現行どおり 2-10 鉄 筋 工 鉄筋工は、「第Ⅱ編第4章④鉄筋工」により別途計上する。 現行どおり
	表2. 5 吸出し防止材敷設歩掛		（100m2当り）								
名 称	単位	数量									
普 通 作 業 員	人	0.5									
	Ⅱ-2-①-18	118									

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後
II-2-⑤-1	⑤ 場所打擁壁工 ⑤-1 場所打擁壁工(1) 1. 適用範囲 本資料は、擁壁工における擁壁に適用する。 1-1 適用出来る範囲 1-1-1 小型擁壁 (1) 擁壁平均高さが0.5m以上1.0m以下の小型擁壁 (2) コンクリート打設地上高さが施工基面より上の場合、打設地上高さ0m以上2.5m以下、且つ水平打設距離4.5m以下 (3) コンクリート打設地上高さが施工基面より下の場合、打設地上高さ-7.0m以上0m未満、且つ水平打設距離3.5m以下  参考図(バックホウによるコンクリート打設範囲) 1-1-2 重力式擁壁 (1) 擁壁平均高さが1.0mを超え5.0m以下の重力式擁壁 (2) 擁壁平均高さが1.0mを超え2.0m未満、且つコンクリート打設地上高さが施工基面より上の場合、打設地上高さ0m以上2.5m以下、且つ水平打設距離4.5m以下 (3) 擁壁平均高さが1.0mを超え2.0m未満、且つコンクリート打設地上高さが施工基面より下の場合、打設地上高さ-7.0m以上0m未満、且つ水平打設距離3.5m以下 (4) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合 (5) 圧送コンクリートのスランプ値が8~12cm、粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合 1-1-3 もたれ式擁壁 (1) 擁壁平均高さが3.0m以上8.0m以下のもたれ式擁壁 (2) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合 (3) 圧送コンクリートのスランプ値が8~12cm、粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合 1-1-4 逆T型擁壁 (1) 擁壁平均高さが3.0m以上10.0m以下の逆T型擁壁 (2) 使用鉄筋量が0.04t/m³以上0.14t/m³未満の場合 (3) 鉄筋規格がSD345 D13からSD345 D32の場合 (4) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合 (5) 圧送コンクリートのスランプ値が8~12cm、粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合 1-1-5 L型擁壁 (1) 擁壁平均高さが3.0m以上7.0m以下のL型擁壁 (2) 使用鉄筋量が0.04t/m³以上0.14t/m³未満の場合 (3) 鉄筋規格がSD345 D13からSD345 D32の場合	現行どおり 1-1-4 逆T型擁壁 (1) 擁壁平均高さが3.0m以上10.0m以下の逆T型擁壁 (2) 使用鉄筋量が0.04t/m³以上0.14t/m³未満の場合 (3) 鉄筋規格がSD345 D13からSD345 D32の場合 (2) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合 (3) 圧送コンクリートのスランプ値が8~12cm、粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合 1-1-5 L型擁壁 (1) 擁壁平均高さが3.0m以上7.0m以下のL型擁壁 (2) 使用鉄筋量が0.04t/m³以上0.14t/m³未満の場合 (3) 鉄筋規格がSD345 D13からSD345 D32の場合
	II-2-⑤-1	

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後
II-2-⑤-2	(4) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合 (5) 圧送コンクリートのスランプ値が8～12cm, 粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合 1-2 適用出来ない範囲 (1) エポキシ樹脂塗装鉄筋を使用する場合 また、本項の適用を外れる現場打擁壁工については、「第Ⅱ編第2章共通工⑤-2場所打擁壁工(2)」を適用する。 2. 施 工 概 要 施工フローは、下記を標準とする。 2-1 小型擁壁 (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。 2. 基礎材敷均し・転圧, 均し型枠製作設置・撤去, 均しコンクリート打設・養生は、必要に応じて計上する。 3. 目地材, 水抜きパイプ, 吸出防止材は施工の有無にかかわらず適用出来る。 図2-1 施工フロー(小型擁壁)	(2) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合 (3) 圧送コンクリートのスランプ値が8～12cm, 粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合 1-2 適用出来ない範囲 (1) エポキシ樹脂塗装鉄筋を使用する場合 現行どおり

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後
II-2-⑤-4	2-3 逆T型擁壁, L型擁壁 (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。 2. 基礎材敷均し・転圧, 均し型枠製作設置・撤去, 均しコンクリート打設・養生は、必要に応じて計上する。 3. 目地材, 水抜きパイプ, 吸出し防止材は施工の有無にかかわらず適用出来る。ただし, 吸出し防止材は, 点状で設置する場合を標準としており, 面及び帯状のものを使用する場合は, 別途計上する。 4. ガス圧接が必要な場合は「第Ⅵ編第2章①-2鉄筋工(ガス圧接工)」により, 別途計上する。 図2-3 施工フロー(逆T型擁壁, L型擁壁)	2-3 逆T型擁壁, L型擁壁 (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。 2. 基礎材敷均し・転圧, 均し型枠製作設置・撤去, 均しコンクリート打設・養生は、必要に応じて計上する。 3. 目地材, 水抜きパイプ, 吸出し防止材は施工の有無にかかわらず適用出来る。ただし, 吸出し防止材は, 点状で設置する場合を標準としており, 面及び帯状のものを使用する場合は, 別途計上する。 4. 鉄筋工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。 図2-3 施工フロー(逆T型擁壁, L型擁壁)

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁

改定前

改定後

表3.3 コンクリート規格

積算条件	区分	
コンクリート規格	21-8-25(20) (普通)	18-8-40(高炉)
	21-12-25(20) (普通)	18-12-40(高炉)
	24-8-25(20) (普通)	21-8-40(高炉)
	24-12-25(20) (普通)	21-12-40(高炉)
	27-8-25(20) (普通)	24-8-40(高炉)
	27-12-25(20) (普通)	24-12-40(高炉)
	18-8-40(普通)	21-8-25 (早強)
	18-12-40(普通)	21-12-25 (早強)
	21-8-40(普通)	24-8-25 (早強)
	21-12-40(普通)	24-12-25 (早強)
	24-8-40(普通)	18-8-25(高炉)
	24-12-40(普通)	18-12-25(高炉)
	21-8-25(20) (高炉)	各種
	21-12-25(20) (高炉)	
	24-8-25(20) (高炉)	
	24-12-25(20) (高炉)	

改定無し

Ⅱ-2-⑤-6

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.4 小型擁壁 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)] 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 吊能力2.9t	
	K 2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・特殊養生(ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀ)の場合 ・賃料
	K 3	-	
労務	R 1	型わく工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手(特殊)	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z 2	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀ)の場合
	Z 3	軽油 バトロール給油	
	Z 4	-	
市場単価	S	-	

Ⅱ-2-⑤-6

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.4 小型擁壁 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格		備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型) [後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)] 山積0.45m³(平積0.35m³) 吊能力2.9t	
	K 2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料識別 灯油	・特殊養生(ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀ)の場合 ・賃料
	K 3	-	
労務	R 1	型わく工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z 2	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀ)の場合
	Z 3	軽油 バトロール給油	
	Z 4	-	
市場単価	S	-	

令和8年7月27日訂正

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後																																																																																																
II-2-⑤-7	3-2 重力式擁壁 (1) 条件区分 条件区分は、次表を標準とする。 表3.5 重力式擁壁 積算条件区分一覧 (積算単位: m3) <table><tr><th>擁壁平均高さ</th><th>コンクリート規格</th><th>基礎砕石の有無</th><th>均しコンクリートの有無</th><th>養生工の種類</th><th>圧送管延長距離区分</th></tr><tr><td rowspan="12">1.0mを超え 2.0m 未満</td><td rowspan="24">(表 3.3)</td><td rowspan="6">無し</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td><td rowspan="12">(表 3.6)</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td rowspan="6">有り</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td rowspan="12">2.0m 以上 5.0m 以下</td><td rowspan="24">(表 3.3)</td><td rowspan="6">無し</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td><td rowspan="12">(表 3.6)</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>養生工無し</td></tr><tr><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td rowspan="6">有り</td><td rowspan="3">無し</td><td>仮囲い内ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td>一般養生</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr></table> (注) 1. 上表は、重力式擁壁(擁壁平均高さ1.0mを超え5.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びクレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、一般足場(擁壁平均高さが2m未満の場合)、単管傾斜足場(擁壁平均高さが2m以上の場合)、手掘先行型枠組足場(擁壁平均高さが2m以上の場合)、目地材(ひび割れ誘発目地を除く)、木抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリートバケット等)の損料、電力に関する経費、コンクリートポンプ車のホースの簡先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし化粧型枠は含まない。 2. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.04) 3. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。 4. 化粧型枠については加算費用を、「第II編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。 5. ペーラインコンクリートの材料費については、「3-8ペーラインコンクリート(材料費)」により別途計上すること。	擁壁平均高さ	コンクリート規格	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	1.0mを超え 2.0m 未満	(表 3.3)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	養生工無し	有り	一般養生	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	養生工無し	有り	無し	一般養生	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	養生工無し	有り	一般養生	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	養生工無し	2.0m 以上 5.0m 以下	(表 3.3)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内ジェットヒータ養生	有り	養生工無し	一般養生	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	有り	無し	仮囲い内ジェットヒータ養生	養生工無し	一般養生	有り	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内ジェットヒータ養生	養生工無し	3-2 重力式擁壁 (1) 条件区分 条件区分は、次表を標準とする。 表3.5 重力式擁壁 積算条件区分一覧 (積算単位: m3) <table><tr><th>擁壁平均高さ</th><th>コンクリート規格</th><th>基礎砕石の有無</th><th>均しコンクリートの有無</th><th>養生工の種類</th><th>圧送管延長距離区分</th></tr><tr><td rowspan="12">1.0mを超え 2.0m 未満</td><td rowspan="24">(表 3.3)</td><td rowspan="6">無し</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td><td rowspan="12">(表 3.6)</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td rowspan="6">有り</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td rowspan="12">2.0m 以上 5.0m 以下</td><td rowspan="24">(表 3.3)</td><td rowspan="6">無し</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td><td rowspan="12">(表 3.6)</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>養生工無し</td></tr><tr><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td rowspan="6">有り</td><td rowspan="3">無し</td><td>仮囲い内ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr><tr><td>一般養生</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td>養生工無し</td></tr></table> (注) 1. 上表は、重力式擁壁(擁壁平均高さ1.0mを超え5.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びクレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、一般足場(擁壁平均高さが2m未満の場合)、単管傾斜足場(擁壁平均高さが2m以上の場合)、手掘先行型枠組足場(擁壁平均高さが2m以上の場合)、目地材(ひび割れ誘発目地を除く)、木抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリートバケット等)の損料、電力に関する経費、コンクリートポンプ車のホースの簡先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし化粧型枠は含まない。 2. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.04) 3. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。 4. 化粧型枠については加算費用を、「第II編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。 5. ペーラインコンクリートの材料費については、「3-8ペーラインコンクリート(材料費)」により別途計上すること。	擁壁平均高さ	コンクリート規格	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	1.0mを超え 2.0m 未満	(表 3.3)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	養生工無し	有り	一般養生	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	養生工無し	有り	無し	一般養生	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	養生工無し	有り	一般養生	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	養生工無し	2.0m 以上 5.0m 以下	(表 3.3)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内ジェットヒータ養生	有り	養生工無し	一般養生	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	有り	無し	仮囲い内ジェットヒータ養生	養生工無し	一般養生	有り	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内ジェットヒータ養生	養生工無し
	擁壁平均高さ	コンクリート規格	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分																																																																																												
1.0mを超え 2.0m 未満	(表 3.3)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)																																																																																													
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																														
				養生工無し																																																																																														
			有り	一般養生																																																																																														
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																														
				養生工無し																																																																																														
		有り	無し	一般養生																																																																																														
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																														
				養生工無し																																																																																														
			有り	一般養生																																																																																														
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																														
				養生工無し																																																																																														
2.0m 以上 5.0m 以下		(表 3.3)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)																																																																																												
					特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
					仮囲い内ジェットヒータ養生																																																																																													
				有り	養生工無し																																																																																													
					一般養生																																																																																													
					特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
			有り	無し	仮囲い内ジェットヒータ養生																																																																																													
					養生工無し																																																																																													
					一般養生																																																																																													
				有り	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
					仮囲い内ジェットヒータ養生																																																																																													
					養生工無し																																																																																													
擁壁平均高さ	コンクリート規格		基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分																																																																																												
1.0mを超え 2.0m 未満	(表 3.3)		無し	無し	一般養生	(表 3.6)																																																																																												
					特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
					養生工無し																																																																																													
				有り	一般養生																																																																																													
					特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
					養生工無し																																																																																													
			有り	無し	一般養生																																																																																													
					特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
					養生工無し																																																																																													
				有り	一般養生																																																																																													
					特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
		養生工無し																																																																																																
2.0m 以上 5.0m 以下		(表 3.3)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)																																																																																												
					特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
					仮囲い内ジェットヒータ養生																																																																																													
				有り	養生工無し																																																																																													
					一般養生																																																																																													
					特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
			有り	無し	仮囲い内ジェットヒータ養生																																																																																													
					養生工無し																																																																																													
					一般養生																																																																																													
				有り	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)																																																																																													
					仮囲い内ジェットヒータ養生																																																																																													
					養生工無し																																																																																													
改定無し	令和8年7月27日訂正																																																																																																	

改定無し

令和8年7月27日訂正

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後																																																																																																																																																																																																						
II-2-⑤-8	6. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。 8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第II編第5章仮設工⑩-2 雪害仮囲い工」により別途計上する。 9. 擁壁平均高さが1.0mを超え2.0m未満で、「仮囲い内ジェットヒータ養生」が必要な場合には別途考慮すること。 <table><tr><th colspan="2">表3. 6 圧送管延長距離区分</th></tr><tr><th>積算条件</th><th>区分</th></tr><tr><td rowspan="4">圧送管延長 距離区分</td><td>延長無し</td></tr><tr><td>90m 未満</td></tr><tr><td>90m 以上 180m 未満</td></tr><tr><td>180m 以上 280m 以下</td></tr></table> (2) 代表機材規格 下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。 <table><tr><th colspan="4">表3. 7 重力式擁壁 代表機材規格一覧</th></tr><tr><th>擁壁平均高さ</th><th>項目</th><th>代表機材規格</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="12">1mを超え 2m 未満</td><td rowspan="3">機械</td><td>K 1</td><td>バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）] 山積 0.45m³（平積 0.35m³） 吊能力 2.9t</td><td></td></tr><tr><td>K 2</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td>K 3</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">労務</td><td>R 1</td><td>普通作業員</td><td></td></tr><tr><td>R 2</td><td>型わく工</td><td></td></tr><tr><td>R 3</td><td>土木一般世話役</td><td></td></tr><tr><td>R 4</td><td>特殊作業員</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">材料</td><td>Z 1</td><td>生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%</td><td></td></tr><tr><td>Z 2</td><td>軽油 バトロール給油</td><td></td></tr><tr><td>Z 3</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td>Z 4</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td>市場単価</td><td>S</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td rowspan="12">2m 以上 5m 以下</td><td rowspan="3">機械</td><td>K 1</td><td>コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m³/h</td><td></td></tr><tr><td>K 2</td><td>業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油</td><td>・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料</td></tr><tr><td>K 3</td><td>発電発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA</td><td>・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料</td></tr><tr><td rowspan="4">労務</td><td>R 1</td><td>普通作業員</td><td></td></tr><tr><td>R 2</td><td>型わく工</td><td></td></tr><tr><td>R 3</td><td>土木一般世話役</td><td></td></tr><tr><td>R 4</td><td>とび工</td><td>一般、特殊養生の場合</td></tr><tr><td rowspan="4">材料</td><td>Z 1</td><td>生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%</td><td></td></tr><tr><td>Z 2</td><td>軽油 バトロール給油</td><td></td></tr><tr><td>Z 3</td><td>灯油 白灯油 業務用 ミニローリー</td><td>仮囲い内ジェットヒータ養生の場合</td></tr><tr><td>Z 4</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td>市場単価</td><td>S</td><td>-</td><td></td></tr></table>	表3. 6 圧送管延長距離区分		積算条件	区分	圧送管延長 距離区分	延長無し	90m 未満	90m 以上 180m 未満	180m 以上 280m 以下	表3. 7 重力式擁壁 代表機材規格一覧				擁壁平均高さ	項目	代表機材規格	備考	1mを超え 2m 未満	機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）] 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ） 吊能力 2.9t		K 2	-		K 3	-		労務	R 1	普通作業員		R 2	型わく工		R 3	土木一般世話役		R 4	特殊作業員		材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%		Z 2	軽油 バトロール給油		Z 3	-		Z 4	-		市場単価	S	-		2m 以上 5m 以下	機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h		K 2	業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	K 3	発電発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	労務	R 1	普通作業員		R 2	型わく工		R 3	土木一般世話役		R 4	とび工	一般、特殊養生の場合	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%		Z 2	軽油 バトロール給油		Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	Z 4	-		市場単価	S	-		6. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。 8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第II編第5章仮設工⑩-2 雪害仮囲い工」により別途計上する。 9. 擁壁平均高さが1.0mを超え2.0m未満で、「仮囲い内ジェットヒータ養生」が必要な場合には別途考慮すること。 <table><tr><th colspan="2">表3. 6 圧送管延長距離区分</th></tr><tr><th>積算条件</th><th>区分</th></tr><tr><td rowspan="4">圧送管延長 距離区分</td><td>延長無し</td></tr><tr><td>90m 未満</td></tr><tr><td>90m 以上 180m 未満</td></tr><tr><td>180m 以上 280m 以下</td></tr></table> (2) 代表機材規格 下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。 <table><tr><th colspan="4">表3. 7 重力式擁壁 代表機材規格一覧</th></tr><tr><th>擁壁平均高さ</th><th>項目</th><th>代表機材規格</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="12">1mを超え 2m 未満</td><td rowspan="3">機械</td><td>K 1</td><td>バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）] バケット容量 山積0.45m³（平積0.35m³） 吊能力 2.9t</td><td></td></tr><tr><td>K 2</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td>K 3</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">労務</td><td>R 1</td><td>普通作業員</td><td></td></tr><tr><td>R 2</td><td>型わく工</td><td></td></tr><tr><td>R 3</td><td>土木一般世話役</td><td></td></tr><tr><td>R 4</td><td>特殊作業員</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">材料</td><td>Z 1</td><td>生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%</td><td></td></tr><tr><td>Z 2</td><td>軽油 バトロール給油</td><td></td></tr><tr><td>Z 3</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td>Z 4</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td>市場単価</td><td>S</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td rowspan="12">2m 以上 5m 以下</td><td rowspan="3">機械</td><td>K 1</td><td>コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m³/h</td><td></td></tr><tr><td>K 2</td><td>業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油</td><td>・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料</td></tr><tr><td>K 3</td><td>発電発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA</td><td>・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料</td></tr><tr><td rowspan="4">労務</td><td>R 1</td><td>普通作業員</td><td></td></tr><tr><td>R 2</td><td>型わく工</td><td></td></tr><tr><td>R 3</td><td>土木一般世話役</td><td></td></tr><tr><td>R 4</td><td>とび工</td><td>一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合</td></tr><tr><td rowspan="4">材料</td><td>Z 1</td><td>生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%</td><td></td></tr><tr><td>Z 2</td><td>軽油 バトロール給油</td><td></td></tr><tr><td>Z 3</td><td>灯油 白灯油 業務用 ミニローリー</td><td>仮囲い内ジェットヒータ養生の場合</td></tr><tr><td>Z 4</td><td>-</td><td></td></tr><tr><td>市場単価</td><td>S</td><td>-</td><td></td></tr></table>	表3. 6 圧送管延長距離区分		積算条件	区分	圧送管延長 距離区分	延長無し	90m 未満	90m 以上 180m 未満	180m 以上 280m 以下	表3. 7 重力式擁壁 代表機材規格一覧				擁壁平均高さ	項目	代表機材規格	備考	1mを超え 2m 未満	機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）] バケット容量 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ） 吊能力 2.9t		K 2	-		K 3	-		労務	R 1	普通作業員		R 2	型わく工		R 3	土木一般世話役		R 4	特殊作業員		材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%		Z 2	軽油 バトロール給油		Z 3	-		Z 4	-		市場単価	S	-		2m 以上 5m 以下	機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h		K 2	業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	K 3	発電発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	労務	R 1	普通作業員		R 2	型わく工		R 3	土木一般世話役		R 4	とび工	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%		Z 2	軽油 バトロール給油		Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	Z 4	-		市場単価	S	-	
	表3. 6 圧送管延長距離区分																																																																																																																																																																																																							
積算条件	区分																																																																																																																																																																																																							
圧送管延長 距離区分	延長無し																																																																																																																																																																																																							
	90m 未満																																																																																																																																																																																																							
	90m 以上 180m 未満																																																																																																																																																																																																							
	180m 以上 280m 以下																																																																																																																																																																																																							
表3. 7 重力式擁壁 代表機材規格一覧																																																																																																																																																																																																								
擁壁平均高さ	項目	代表機材規格	備考																																																																																																																																																																																																					
1mを超え 2m 未満	機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）] 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ） 吊能力 2.9t																																																																																																																																																																																																					
		K 2	-																																																																																																																																																																																																					
		K 3	-																																																																																																																																																																																																					
	労務	R 1	普通作業員																																																																																																																																																																																																					
		R 2	型わく工																																																																																																																																																																																																					
		R 3	土木一般世話役																																																																																																																																																																																																					
		R 4	特殊作業員																																																																																																																																																																																																					
	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%																																																																																																																																																																																																					
		Z 2	軽油 バトロール給油																																																																																																																																																																																																					
		Z 3	-																																																																																																																																																																																																					
		Z 4	-																																																																																																																																																																																																					
	市場単価	S	-																																																																																																																																																																																																					
2m 以上 5m 以下	機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h																																																																																																																																																																																																					
		K 2	業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料																																																																																																																																																																																																				
		K 3	発電発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料																																																																																																																																																																																																				
	労務	R 1	普通作業員																																																																																																																																																																																																					
		R 2	型わく工																																																																																																																																																																																																					
		R 3	土木一般世話役																																																																																																																																																																																																					
		R 4	とび工	一般、特殊養生の場合																																																																																																																																																																																																				
	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%																																																																																																																																																																																																					
		Z 2	軽油 バトロール給油																																																																																																																																																																																																					
		Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合																																																																																																																																																																																																				
		Z 4	-																																																																																																																																																																																																					
	市場単価	S	-																																																																																																																																																																																																					
表3. 6 圧送管延長距離区分																																																																																																																																																																																																								
積算条件	区分																																																																																																																																																																																																							
圧送管延長 距離区分	延長無し																																																																																																																																																																																																							
	90m 未満																																																																																																																																																																																																							
	90m 以上 180m 未満																																																																																																																																																																																																							
	180m 以上 280m 以下																																																																																																																																																																																																							
表3. 7 重力式擁壁 代表機材規格一覧																																																																																																																																																																																																								
擁壁平均高さ	項目	代表機材規格	備考																																																																																																																																																																																																					
1mを超え 2m 未満	機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2014年規制）] バケット容量 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ） 吊能力 2.9t																																																																																																																																																																																																					
		K 2	-																																																																																																																																																																																																					
		K 3	-																																																																																																																																																																																																					
	労務	R 1	普通作業員																																																																																																																																																																																																					
		R 2	型わく工																																																																																																																																																																																																					
		R 3	土木一般世話役																																																																																																																																																																																																					
		R 4	特殊作業員																																																																																																																																																																																																					
	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%																																																																																																																																																																																																					
		Z 2	軽油 バトロール給油																																																																																																																																																																																																					
		Z 3	-																																																																																																																																																																																																					
		Z 4	-																																																																																																																																																																																																					
	市場単価	S	-																																																																																																																																																																																																					
2m 以上 5m 以下	機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h																																																																																																																																																																																																					
		K 2	業務用可搬型ヒータ[ジェットヒータ][油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料																																																																																																																																																																																																				
		K 3	発電発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料																																																																																																																																																																																																				
	労務	R 1	普通作業員																																																																																																																																																																																																					
		R 2	型わく工																																																																																																																																																																																																					
		R 3	土木一般世話役																																																																																																																																																																																																					
		R 4	とび工	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合																																																																																																																																																																																																				
	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%																																																																																																																																																																																																					
		Z 2	軽油 バトロール給油																																																																																																																																																																																																					
		Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合																																																																																																																																																																																																				
		Z 4	-																																																																																																																																																																																																					
	市場単価	S	-																																																																																																																																																																																																					
	II-2-⑤-8	II-2-⑤-8																																																																																																																																																																																																						

改定無し

令和8年7月27日訂正

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後																																																														
II-2-⑤-10	3. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。 4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。 5. ベーラインコンクリートの材料費については、「3-8 ベーラインコンクリート (材料費)」により別途計上すること。 6. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。 8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工③-2 雪寒仮囲い工」により別途計上する。 (2) 代表機材規格 下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。 表3.9 もたれ式擁壁 代表機材規格一覧 <table> <tr> <th>項目</th><th>代表機材規格</th><th>備考</th></tr> <tr> <td rowspan="3">機械</td><td>K 1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m³/h</td><td></td></tr> <tr> <td>K 2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油</td><td>・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料</td></tr> <tr> <td>K 3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA</td><td>・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料</td></tr> <tr> <td rowspan="4">労務</td><td>R 1 普通作業員</td><td></td></tr> <tr> <td>R 2 型わく工</td><td></td></tr> <tr> <td>R 3 土木一般世話役</td><td></td></tr> <tr> <td>R 4 とび工 特殊作業員</td><td>一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合</td></tr> <tr> <td rowspan="4">材料</td><td>Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%</td><td></td></tr> <tr> <td>Z 2 軽油 バトロール給油</td><td></td></tr> <tr> <td>Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー</td><td>仮囲い内ジェットヒータ養生の場合</td></tr> <tr> <td>Z 4 -</td><td></td></tr> <tr> <td>市場単価</td><td>S -</td><td></td></tr> </table>	項目	代表機材規格	備考	機械	K 1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h		K 2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	K 3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	労務	R 1 普通作業員		R 2 型わく工		R 3 土木一般世話役		R 4 とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	材料	Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%		Z 2 軽油 バトロール給油		Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	Z 4 -		市場単価	S -		3. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。 4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。 5. ベーラインコンクリートの材料費については、「3-8 ベーラインコンクリート (材料費)」により別途計上すること。 6. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。 8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工③-2 雪寒仮囲い工」により別途計上する。 (2) 代表機材規格 下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。 表3.9 もたれ式擁壁 代表機材規格一覧 <table> <tr> <th>項目</th><th>代表機材規格</th><th>備考</th></tr> <tr> <td rowspan="3">機械</td><td>K 1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m³/h</td><td></td></tr> <tr> <td>K 2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油</td><td>・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料</td></tr> <tr> <td>K 3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA</td><td>・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料</td></tr> <tr> <td rowspan="4">労務</td><td>R 1 普通作業員</td><td></td></tr> <tr> <td>R 2 型わく工</td><td></td></tr> <tr> <td>R 3 土木一般世話役</td><td></td></tr> <tr> <td>R 4 とび工 特殊作業員</td><td>一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合</td></tr> <tr> <td rowspan="4">材料</td><td>Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%</td><td></td></tr> <tr> <td>Z 2 軽油 バトロール給油</td><td></td></tr> <tr> <td>Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー</td><td>仮囲い内ジェットヒータ養生の場合</td></tr> <tr> <td>Z 4 -</td><td></td></tr> <tr> <td>市場単価</td><td>S -</td><td></td></tr> </table>	項目	代表機材規格	備考	機械	K 1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h		K 2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	K 3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	労務	R 1 普通作業員		R 2 型わく工		R 3 土木一般世話役		R 4 とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	材料	Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%		Z 2 軽油 バトロール給油		Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合	Z 4 -		市場単価	S -	
項目	代表機材規格	備考																																																														
機械	K 1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h																																																															
	K 2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料																																																														
	K 3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料																																																														
労務	R 1 普通作業員																																																															
	R 2 型わく工																																																															
	R 3 土木一般世話役																																																															
	R 4 とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合																																																														
材料	Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%																																																															
	Z 2 軽油 バトロール給油																																																															
	Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合																																																														
	Z 4 -																																																															
市場単価	S -																																																															
項目	代表機材規格	備考																																																														
機械	K 1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h																																																															
	K 2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料																																																														
	K 3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料																																																														
労務	R 1 普通作業員																																																															
	R 2 型わく工																																																															
	R 3 土木一般世話役																																																															
	R 4 とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合																																																														
材料	Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%																																																															
	Z 2 軽油 バトロール給油																																																															
	Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合																																																														
	Z 4 -																																																															
市場単価	S -																																																															
	改定無し	令和8年7月27日訂正																																																														

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後																																																						
II-2-⑤-11	3-4 逆T型擁壁 (1) 条件区分 条件区分は、次表を標準とする。 表3.10 逆T型擁壁 積算条件区分一覧 (積算単位: m3) <table><tr><th>コンクリート規格</th><th>鉄筋量</th><th>基礎碎石の有無</th><th>均しコンクリートの有無</th><th>養生工の種類</th><th>圧送管延長距離区分</th></tr><tr><td rowspan="12">(表 3.3)</td><td rowspan="12">(表 3.11)</td><td rowspan="6">無し</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td><td rowspan="12">(表 3.6)</td></tr><tr><td>特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内 ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内 ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td rowspan="6">有り</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内 ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内 ジェットヒータ養生</td></tr></table> (注) 1. 上表は、逆T型擁壁(擁壁平均高さ3.0m以上10.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材(ひび割れ誘発目地を除く)、水抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ベールラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事中水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリートバケット等)の損料、電力に関する経費、コンクリートポンプ車のホースの簡先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。 2. コンクリート・鉄筋の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.02、鉄筋が+0.03とする。 3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。 4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。 5. ベールラインコンクリートの材料費については、「3-8ベールラインコンクリート(材料費)」により別途計上すること。 6. ガス圧接が必要な場合は、「第Ⅵ編第2章①-2鉄筋工(ガス圧接工)」により別途計上する。 7. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 8. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。 9. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工③-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。	コンクリート規格	鉄筋量	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	(表 3.3)	(表 3.11)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内 ジェットヒータ養生	有り	一般養生	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内 ジェットヒータ養生	有り	無し	一般養生	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内 ジェットヒータ養生	有り	一般養生	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内 ジェットヒータ養生	3-4 逆T型擁壁 (1) 条件区分 条件区分は、次表を標準とする。 表3.10 逆T型擁壁 積算条件区分一覧 (積算単位: m3) <table><tr><th>コンクリート規格</th><th>基礎材</th><th>基礎碎石の有無</th><th>均しコンクリートの有無</th><th>養生工の種類</th><th>圧送管延長距離区分</th></tr><tr><td rowspan="13">(表 3.3)</td><td rowspan="12">(表 3.11)</td><td rowspan="6">無し</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td><td rowspan="12">(表 3.6)</td></tr><tr><td>特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内 ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内 ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td rowspan="6">有り</td><td rowspan="3">無し</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内 ジェットヒータ養生</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>一般養生</td></tr><tr><td>特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)</td></tr><tr><td>仮囲い内 ジェットヒータ養生</td></tr></table> (注) 1. 上表は、逆T型擁壁(擁壁平均高さ3.0m以上10.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材(ひび割れ誘発目地を除く)、水抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ベールラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事中水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリートバケット等)の損料、電力に関する経費、コンクリートポンプ車のホースの簡先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。 2. コンクリート・鉄筋の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.02、鉄筋が+0.03とする。 3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。 4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。 5. ベールラインコンクリートの材料費については、「3-8ベールラインコンクリート(材料費)」により別途計上すること。 6. ガス圧接が必要な場合は、「第Ⅵ編第2章①-2鉄筋工(ガス圧接工)」により別途計上する。 6. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。 8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工③-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。	コンクリート規格	基礎材	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	(表 3.3)	(表 3.11)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内 ジェットヒータ養生	有り	一般養生	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内 ジェットヒータ養生	有り	無し	一般養生	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内 ジェットヒータ養生	有り	一般養生	特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	仮囲い内 ジェットヒータ養生
コンクリート規格	鉄筋量	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分																																																			
(表 3.3)	(表 3.11)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)																																																			
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)																																																				
				仮囲い内 ジェットヒータ養生																																																				
			有り	一般養生																																																				
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)																																																				
				仮囲い内 ジェットヒータ養生																																																				
		有り	無し	一般養生																																																				
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)																																																				
				仮囲い内 ジェットヒータ養生																																																				
			有り	一般養生																																																				
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)																																																				
				仮囲い内 ジェットヒータ養生																																																				
コンクリート規格	基礎材	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分																																																			
(表 3.3)	(表 3.11)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)																																																			
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)																																																				
				仮囲い内 ジェットヒータ養生																																																				
			有り	一般養生																																																				
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)																																																				
				仮囲い内 ジェットヒータ養生																																																				
		有り	無し	一般養生																																																				
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)																																																				
				仮囲い内 ジェットヒータ養生																																																				
			有り	一般養生																																																				
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)																																																				
				仮囲い内 ジェットヒータ養生																																																				
	215	II-2-⑤-11																																																						

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁

改定前

改定後

表3.11 鉄筋量

積算条件	区分
鉄筋量	0.04t/m ³ 以上0.06t/m ³ 未満
	0.06t/m ³ 以上0.08t/m ³ 未満
	0.08t/m ³ 以上0.10t/m ³ 未満
	0.10t/m ³ 以上0.12t/m ³ 未満
	0.12t/m ³ 以上0.14t/m ³ 未満

(注) 条件区分の鉄筋量は、ロスを含まない数量とする。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.12 逆T型擁壁 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h	
	K2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30, 100kcal/h) 油種 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
	K3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
労務	R1 普通作業員	
	R2 型わく工	
	R3 土木一般世話役	
	R4 とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
材料	Z1 生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C 55%	
	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	鉄筋量が 0.04t/m ³ 以上 0.06t/m ³ 未満の場合
	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D19	鉄筋量が 0.06t/m ³ 以上 0.08t/m ³ 未満の場合
	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	鉄筋量が 0.08t/m ³ 以上 0.10t/m ³ 未満の場合
	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D29	鉄筋量が 0.10t/m ³ 以上 0.12t/m ³ 未満の場合
	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D32	鉄筋量が 0.12t/m ³ 以上 0.14t/m ³ 未満の場合
	Z3 軽油 バトロール給油	
	Z4 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
市場単価	S 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	

~~表3.11 鉄筋量~~

積算条件	区分
鉄筋量	0.04t/m³以上0.06t/m³未満
	0.06t/m³以上0.08t/m³未満
	0.08t/m³以上0.10t/m³未満
	0.10t/m³以上0.12t/m³未満
	0.12t/m³以上0.14t/m³未満

~~(注) 条件区分の鉄筋量は、ロスを含まない数量とする。~~

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.11 逆T型擁壁 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h	
	K2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30, 100kcal/h) 燃料識別 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
	K3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
労務	R1 普通作業員	
	R2 型わく工	
	R3 土木一般世話役	
	R4 とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
材料	Z1 生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C 55%	
	Z2 軽油 バトロール給油	
	Z3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
	Z4 —	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
市場単価	S —	

II-2-⑤-12

II-2-⑤-12

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁

改定前

改定後

3-5 L型擁壁
(1) 条件区分
条件区分は、次表を標準とする。

表3.13 L型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)					
コンクリート規格	鉄筋量	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分
(表 3.3)	(表 3.11)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
		有り	無し	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	

(注) 1. 上表は、L型擁壁(擁壁平均高さ3.0m以上7.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材(ひび割れ誘発目地を除く)、水抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ベールラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリートバケット等)の損料、電力に関する経費、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリート・鉄筋の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.02、鉄筋が+0.03とする。
3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。
5. ベールラインコンクリートの材料費については、「3-8ベールラインコンクリート(材料費)」により別途計上すること。
6. ガス圧接が必要な場合は、「第Ⅵ編第2章①-2鉄筋工(ガス圧接工)」により別途計上する。
7. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
8. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
9. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工③-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。

3-5 L型擁壁
(1) 条件区分
条件区分は、次表を標準とする。

表3.12 L型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)					
コンクリート規格	基礎材	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分
(表 3.3)	(表 3.11)	無し	無し	一般養生	(表 3.6)
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
		有り	無し	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	

(注) 1. 上表は、L型擁壁(擁壁平均高さ3.0m以上7.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、~~基礎材~~、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材(ひび割れ誘発目地を除く)、水抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ベールラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリートバケット等)の損料、電力に関する経費、コンクリートポンプ車のホースの筒先作業等を行う機械付補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリート~~・基礎材~~の材料ロスを含む。標準ロス率は、~~コンクリートが+0.02、鉄筋が+0.03とする。~~
3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。
5. ベールラインコンクリートの材料費については、「3-8ベールラインコンクリート(材料費)」により別途計上すること。
~~6. ガス圧接が必要な場合は、「第Ⅵ編第2章①-2鉄筋工(ガス圧接工)」により別途計上する。~~
6. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工③-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。

II-2-⑤-13

II-2-⑤-13

217

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁

II-2-⑤-14

改定前

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.14 L型擁壁 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K 1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m3/h	
	K 2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
	K 3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
労務	R 1 普通作業員	
	R 2 型わく工	
	R 3 土木一般世話役	
	R 4 とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
材料	Z 1 生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C 55%	
	Z 2 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D19 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D29 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D32	鉄筋量が 0.04t/m3 以上 0.06t/m3 未満の場合
		鉄筋量が 0.06t/m3 以上 0.08t/m3 未満の場合
		鉄筋量が 0.08t/m3 以上 0.10t/m3 未満の場合
		鉄筋量が 0.10t/m3 以上 0.12t/m3 未満の場合
		鉄筋量が 0.12t/m3 以上 0.14t/m3 未満の場合
	Z 3 軽油 バトロール給油	
	Z 4 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
市場単価	S 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	

3-6 化粧型枠

「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」による。

3-7 化粧型枠 (材料費)

「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-3化粧型枠 (材料費)」による。

改定後

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.13 L型擁壁 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	備考
機械	K 1 コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m3/h	
	K 2 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
	K 3 発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
労務	R 1 普通作業員	
	R 2 型わく工	
	R 3 土木一般世話役	
	R 4 とび工 特殊作業員	一般、特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
材料	Z 1 生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C 55%	
	Z 2 軽油 バトロール給油	
	Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
	Z 4 —	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
市場単価	S —	

3-6 化粧型枠

「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」による。

3-7 化粧型枠 (材料費)

「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-3化粧型枠 (材料費)」による。

II-2-⑤-14

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表																		
頁	改定前	改定後																
Ⅱ-2-⑤-15	3-8 ペーラインコンクリート（材料費） （1）条件区分 条件区分は、次表を標準とする。 表3.15 ペーラインコンクリート（材料費） 積算条件区分一覧 (積算単位：m3) <table><tr><th>擁壁種類</th><th>コンクリート規格</th></tr><tr><td>小型擁壁</td><td rowspan="3">(表 3.3)</td></tr><tr><td>重力式・もたれ式擁壁</td></tr><tr><td>逆T型・L型擁壁</td></tr></table> (注) 1. 施工費は、⑤-1 場所打擁壁工（1）の各種擁壁工の積算条件区分に含まれる。 2. 上表は、場所打擁壁工におけるペーラインコンクリートの材料費（ロス等含む）を含む。 3. ペーラインコンクリートのロス率は、次表を標準とする。 表3.16 ロス率 <table><tr><th>材料</th><th>擁壁種類</th><th>ロス率</th></tr><tr><td rowspan="3">ペーラインコンクリート</td><td>小型擁壁</td><td>+0.06</td></tr><tr><td>重力式・もたれ式擁壁</td><td>+0.04</td></tr><tr><td>逆T型・L型擁壁</td><td>+0.02</td></tr></table> 3-9 止水板設置 止水板が必要な場合は、別途計上する。 3-10 裏込碎石 裏込碎石が必要な場合は、「第Ⅱ編第2章②基礎・裏込碎石工」により別途計上する。	擁壁種類	コンクリート規格	小型擁壁	(表 3.3)	重力式・もたれ式擁壁	逆T型・L型擁壁	材料	擁壁種類	ロス率	ペーラインコンクリート	小型擁壁	+0.06	重力式・もたれ式擁壁	+0.04	逆T型・L型擁壁	+0.02	共通工 現行どおり 3-9 鉄筋工 鉄筋工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。 3-10 止水板設置 止水板が必要な場合は、別途計上する。 3-11 裏込碎石 裏込碎石が必要な場合は、「第Ⅱ編第2章②基礎・裏込碎石工」により別途計上する。
	擁壁種類	コンクリート規格																
小型擁壁	(表 3.3)																	
重力式・もたれ式擁壁																		
逆T型・L型擁壁																		
材料	擁壁種類	ロス率																
ペーラインコンクリート	小型擁壁	+0.06																
	重力式・もたれ式擁壁	+0.04																
	逆T型・L型擁壁	+0.02																
219	Ⅱ-2-⑤-15																	

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後																				
II-2-⑤-17	(2) 重力式擁壁 <table><tr><td>パッケージコード</td><td>CB226320</td><td>施工単位</td><td>m3</td></tr><tr><td>施工区分</td><td colspan="4">入 力 条 件</td></tr><tr><td rowspan="2">各 種</td><td>J 1</td><td>J 2</td><td>J 3</td><td>J 4</td><td>J 5</td></tr><tr><td>擁壁平均高さ ①1mを超え 2m未満 ②2m以上 5m以下</td><td>コンクリート 規格 (表 4.1)</td><td>基礎碎石 の有無 ①無し ②有り</td><td>均しコンクリート の有無 ①無し ②有り</td><td>養生工の種類 ①一般養生 ②特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) ③仮囲い内ジェットヒータ養生 ④養生工無</td></tr></table> J 6 圧送管延長距離区分 ①延長無し ②90m 未満 ③90m 以上 180m 未満 ④180m 以上 280m 以下 (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。 2. J 1条件で①を選択した場合は、J 5条件の③は選択出来ない。 3. J 2条件で②を選択した場合は、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。 4. J 5条件で①～③を選択した場合は、各養生費が計上される。また、④を選択した場合は①～③以外の養生費を別途計上する。 5. 表 3. 7 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲 (30m) を超えない場合は、J 6条件で①を選択する。 6. 作業範囲 (30m) を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を J 6条件の②、③及び④から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。 7. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上する。 8. ベーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ベーラインコンクリート (材料費) (CB226370) により別途計上する。 9. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 2条件で②各種を選択し、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。 10. J 5条件③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工③-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。 改定無し →	パッケージコード	CB226320	施工単位	m3	施工区分	入 力 条 件				各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	擁壁平均高さ ①1mを超え 2m未満 ②2m以上 5m以下	コンクリート 規格 (表 4.1)	基礎碎石 の有無 ①無し ②有り	均しコンクリート の有無 ①無し ②有り	養生工の種類 ①一般養生 ②特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) ③仮囲い内ジェットヒータ養生 ④養生工無	現行どおり 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。 2. J 1条件で①を選択した場合は、J 5条件の③は選択出来ない。 3. J 1条件で①を選択した場合は、J 6条件は選択する必要はない。 4. J 2条件で②を選択した場合は、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。 5. J 5条件で①～③を選択した場合は、各養生費が計上される。また、④を選択した場合は①～③以外の養生費を別途計上する。 6. 表 3. 7 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲 (30m) を超えない場合は、J 6条件で①を選択する。 7. 作業範囲 (30m) を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を J 6条件の②、③及び④から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。 8. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上する。 9. ベーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ベーラインコンクリート (材料費) (CB226370) により別途計上する。 10. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 2条件で②各種を選択し、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。 11. J 5条件③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工③-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。
	パッケージコード	CB226320	施工単位	m3																		
施工区分	入 力 条 件																					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5																	
	擁壁平均高さ ①1mを超え 2m未満 ②2m以上 5m以下	コンクリート 規格 (表 4.1)	基礎碎石 の有無 ①無し ②有り	均しコンクリート の有無 ①無し ②有り	養生工の種類 ①一般養生 ②特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) ③仮囲い内ジェットヒータ養生 ④養生工無																	
II-2-⑤-17	令和8年7月27日訂正																					

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

II-2-⑤-19

223

改定前

(4) 逆T型擁壁				
パッケージコード	CB226340		施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	コンクリート 規格	鉄筋量	鉄筋工の労務補正	基礎碎石 の有無
	(表 4.1)	(表 4.2)	①標準(1.0) ②時間的制約を受ける場合(1.10) ③夜間作業の場合(1.25) ④夜間作業及び時間的制約を受ける 場合(1.375)	①無し ②有り

J 5	J 6	J 7
均しコンクリート の有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分
①無し ②有り	①一般養生 ②特殊養生(練炭・ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀｰ) ③仮囲い内ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀｰ養生	①延長無し ②90m 未満 ③90m 以上 180m 未満 ④180m 以上 280m 以下

(注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計
コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合
に分けて入力すること。
2. J 1 条件で②を選択した場合は、コンクリート単価(Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
3. J 3 条件は「第Ⅵ編第2章市場単価①ー1 鉄筋工」による補正である。
4. J 3 条件で夜間補正した場合は、労務費調整係数も入力すること。
5. 表 3.12 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲(30m)を超えない場合は、J 7 条件で①を選択す
る。
6. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離をJ 7 条件の②、③及び④
から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるた
め留意すること。
7. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②ー1 型枠工3ー2 化粧型枠」により別途計上
する。
8. ベーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ベーラインコンクリート(材料費)(CB226370) によ
り別途計上する。
9. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 1 条件で②各種を選択し、コンクリート単価(Y-0210000)
[円/㎡] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
10. J 6 条件で③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工③ー2 雪寒仮囲い工」により別途計上
する。

表4.2 鉄筋量区分	
鉄筋量区分	入力番号
0.04t/㎡3 以上 0.06t/㎡3 未満	①
0.06t/㎡3 以上 0.08t/㎡3 未満	②
0.08t/㎡3 以上 0.10t/㎡3 未満	③
0.10t/㎡3 以上 0.12t/㎡3 未満	④
0.12t/㎡3 以上 0.14t/㎡3 未満	⑤

共
通
工

改定後

(4) 逆T型擁壁				
パッケージコード	CB226340		施工単位	㎡3
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	コンクリート 規格	基礎碎石 の有無	均しコンクリート の有無	養生工の種類
	(表 4.1)	①無し ②有り	①無し ②有り	①一般養生 ②特殊養生(練炭・ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀｰ) ③仮囲い内ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀｰ養生

J 5
圧送管延長距離区分
①延長無し ②90m 未満 ③90m 以上 180m 未満 ④180m 以上 280m 以下

(注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計
コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合
に分けて入力すること。
2. J 1 条件で②を選択した場合は、コンクリート単価(Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
~~3. J 3 条件は「第Ⅵ編第2章市場単価①ー1 鉄筋工」による補正である。~~
~~4. J 3 条件で夜間補正した場合は、労務費調整係数も入力すること。~~
3. 表 3.11 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲(30m)を超えない場合は、J 5 条件で①を選択す
る。
4. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離をJ 5 条件の②、③及び④
から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるた
め留意すること。
5. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②ー1 型枠工3ー2 化粧型枠」により別途計上
する。
6. ベーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ベーラインコンクリート(材料費)(CB226370) によ
り別途計上する。
7. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 1 条件で②各種を選択し、コンクリート単価(Y-0210000)
[円/㎡] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
8. J 4 条件で③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工③ー2 雪寒仮囲い工」により別途計上
する。

表4.2 鉄筋量区分	
鉄筋量区分	入力番号
0.04t/㎡3 以上 0.06t/㎡3 未満	①
0.06t/㎡3 以上 0.08t/㎡3 未満	②
0.08t/㎡3 以上 0.10t/㎡3 未満	③
0.10t/㎡3 以上 0.12t/㎡3 未満	④
0.12t/㎡3 以上 0.14t/㎡3 未満	⑤

II-2-⑤-19

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後																																																														
II-2-⑤-20	(5) L型擁壁 <table border="1"> <tr> <td>パッケージコード</td><td>CB226350</td><td>施工単位</td><td>m3</td></tr> <tr> <td>施工区分</td><td colspan="3">入 力 条 件</td></tr> <tr> <td rowspan="4">各 種</td><td>J 1</td><td>J 2</td><td>J 3</td></tr> <tr> <td>コンクリート規格</td><td>鉄筋量</td><td>鉄筋工の労務補正</td></tr> <tr> <td>(表 4.1)</td><td>(表 4.2)</td><td> ①標準(1.0) ②時間的制約を受ける場合(1.10) ③夜間作業の場合(1.25) ④夜間作業及び時間的制約を受ける場合(1.375) </td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>基礎砕石の有無</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>①無し ②有り</td></tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>J 5</td><td>J 6</td><td>J 7</td></tr> <tr> <td>均しコンクリートの有無</td><td>養生工の種類</td><td>圧送管延長距離区分</td></tr> <tr> <td>①無し ②有り</td><td> ①一般養生 ②特殊養生(練炭・ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ) ③仮囲い内ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ養生 </td><td> ①延長無し ②90m未満 ③90m以上180m未満 ④180m以上280m以下 </td></tr> </table> (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。 2. J 1条件で②を選択した場合は、コンクリート単価(Y-0210000) [円/㎡]を単価登録すること。 3. J 3条件は「第Ⅵ編第2章市場単価①-1 鉄筋工」による補正である。 4. J 3条件で夜間補正した場合は、労務費調整係数も入力すること。 5. 表3.14で想定するコンクリート打設機械の作業範囲(30m)を超えない場合は、J 7条件で①を選択する。 6. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離をJ 7条件の②、③及び④から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。 7. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1 型枠工3-2 化粧型枠」により別途計上する。 8. ベーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ベーラインコンクリート(材料費)(CB226370)により別途計上する。 9. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 1条件で②各種を選択し、コンクリート単価(Y-0210000) [円/㎡]に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。 10. J 6条件で③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工③-2 雪架仮囲い工」により別途計上する。	パッケージコード	CB226350	施工単位	m3	施工区分	入 力 条 件			各 種	J 1	J 2	J 3	コンクリート規格	鉄筋量	鉄筋工の労務補正	(表 4.1)	(表 4.2)	①標準(1.0) ②時間的制約を受ける場合(1.10) ③夜間作業の場合(1.25) ④夜間作業及び時間的制約を受ける場合(1.375)			基礎砕石の有無				①無し ②有り	J 5	J 6	J 7	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分	①無し ②有り	①一般養生 ②特殊養生(練炭・ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ) ③仮囲い内ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ養生	①延長無し ②90m未満 ③90m以上180m未満 ④180m以上280m以下	(5) L型擁壁 <table border="1"> <tr> <td>パッケージコード</td><td>CB226350</td><td>施工単位</td><td>m3</td></tr> <tr> <td>施工区分</td><td colspan="3">入 力 条 件</td></tr> <tr> <td rowspan="4">各 種</td><td>J 1</td><td>J 2</td><td>J 3</td></tr> <tr> <td>コンクリート規格</td><td>基礎砕石の有無</td><td>均しコンクリートの有無</td></tr> <tr> <td>(表 4.1)</td><td>①無し ②有り</td><td>①無し ②有り</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>養生工の種類</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td> ①一般養生 ②特殊養生(練炭・ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ) ③仮囲い内ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ養生 </td></tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>J 5</td></tr> <tr> <td>圧送管延長距離区分</td></tr> <tr> <td> ①延長無し ②90m未満 ③90m以上180m未満 ④180m以上280m以下 </td></tr> </table> (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。 2. J 1条件で②を選択した場合は、コンクリート単価(Y-0210000) [円/㎡]を単価登録すること。 3. J 3条件は「第Ⅵ編第2章市場単価①-1 鉄筋工」による補正である。 4. J 3条件で夜間補正した場合は、労務費調整係数も入力すること。 3. 表3.13で想定するコンクリート打設機械の作業範囲(30m)を超えない場合は、J 5条件で①を選択する。 4. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離をJ 5条件の②、③及び④から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。 5. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1 型枠工3-2 化粧型枠」により別途計上する。 6. ベーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ベーラインコンクリート(材料費)(CB226370)により別途計上する。 7. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 1条件で②各種を選択し、コンクリート単価(Y-0210000) [円/㎡]に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。 8. J 4条件で③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工③-2 雪架仮囲い工」により別途計上する。	パッケージコード	CB226350	施工単位	m3	施工区分	入 力 条 件			各 種	J 1	J 2	J 3	コンクリート規格	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	(表 4.1)	①無し ②有り	①無し ②有り			養生工の種類				①一般養生 ②特殊養生(練炭・ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ) ③仮囲い内ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ養生	J 5	圧送管延長距離区分	①延長無し ②90m未満 ③90m以上180m未満 ④180m以上280m以下
パッケージコード	CB226350	施工単位	m3																																																													
施工区分	入 力 条 件																																																															
各 種	J 1	J 2	J 3																																																													
	コンクリート規格	鉄筋量	鉄筋工の労務補正																																																													
	(表 4.1)	(表 4.2)	①標準(1.0) ②時間的制約を受ける場合(1.10) ③夜間作業の場合(1.25) ④夜間作業及び時間的制約を受ける場合(1.375)																																																													
			基礎砕石の有無																																																													
			①無し ②有り																																																													
J 5	J 6	J 7																																																														
均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分																																																														
①無し ②有り	①一般養生 ②特殊養生(練炭・ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ) ③仮囲い内ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ養生	①延長無し ②90m未満 ③90m以上180m未満 ④180m以上280m以下																																																														
パッケージコード	CB226350	施工単位	m3																																																													
施工区分	入 力 条 件																																																															
各 種	J 1	J 2	J 3																																																													
	コンクリート規格	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無																																																													
	(表 4.1)	①無し ②有り	①無し ②有り																																																													
			養生工の種類																																																													
			①一般養生 ②特殊養生(練炭・ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ) ③仮囲い内ｼﾞｪｯﾄﾋﾞｰｸﾞ養生																																																													
J 5																																																																
圧送管延長距離区分																																																																
①延長無し ②90m未満 ③90m以上180m未満 ④180m以上280m以下																																																																

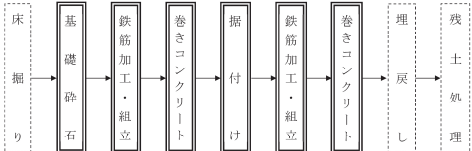
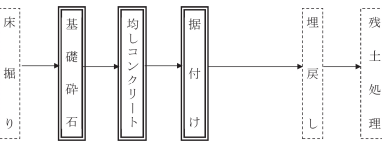
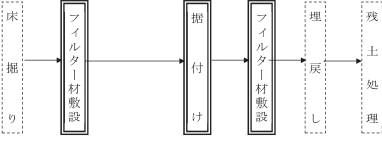
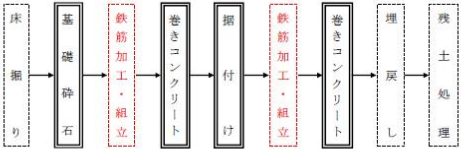
令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後
II-2-⑦-8	3-8 壁面上端処理工 壁面上端処理を施工する場合は、下記による。 (1) コンクリート工 「第II編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 (2) 型枠工 「第II編第4章②-1型枠工」により別途計上する。 (3) 鉄筋工 鉄筋工は「第VI編第2章①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。 [参考図] 帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁工標準断面図 ジオテキスタイル補強土壁工標準断面図(二重壁タイプ) (注) 天端コンクリート施工等の足場については、別途考慮する。 II-2-⑦-8	3-8 壁面上端処理工 壁面上端処理を施工する場合は、下記による。 (1) コンクリート工 「第II編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 (2) 型枠工 「第II編第4章②-1型枠工」により別途計上する。 (3) 鉄筋工 鉄筋工は「第II編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。 現行どおり

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後
II-2-⑧-5	3-7 壁面上端処理工 壁面上端処理工を施工する場合は、下記による。 (1) コンクリート工 「第II編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 (2) 型枠工 「第II編第4章②-1 型枠工」により別途計上する。 (3) 鉄筋工 「第VI編第2章①-1 鉄筋工 (太径鉄筋含む)」により別途計上する。 (4) 足場工 「第II編第5章⑦-1 足場工」により別途計上する。 247 II-2-⑧-5	3-7 壁面上端処理工 壁面上端処理工を施工する場合は、下記による。 (1) コンクリート工 「第II編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 (2) 型枠工 「第II編第4章②-1 型枠工」により別途計上する。 (3) 鉄筋工 「第II編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。 (4) 足場工 「第II編第5章⑦-1 足場工」により別途計上する。 247 II-2-⑧-5

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後
II-2-⑩-3	2. 施 工 概 要 施工フローは、下記を標準とする。 (1) ヒューム管 (B形管)  (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。 2. 基礎砕石、巻きコンクリートは、必要に応じて計上する。 3. コンクリートの養生は、特殊な養生にかかわらず、本施工パッケージを適用出来る。 4. 鉄筋加工・組立は、巻きコンクリートが360°巻きの場合のみ計上する。 (2) ボックスカルバート  (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。 2. 基礎砕石、均しコンクリートは、必要に応じて計上する。 (3) 暗渠排水管、フィルター材  (注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。 II-2-⑩-3	2. 施 工 概 要 施工フローは、下記を標準とする。 (1) ヒューム管 (B形管)  (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。 2. 基礎砕石、巻きコンクリートは、必要に応じて計上する。 3. コンクリートの養生は、特殊な養生にかかわらず、本施工パッケージを適用出来る。 4. 鉄筋工が必要な場合は、『第II編第4章コンクリート工④鉄筋工』により別途計上する。 現行どおり

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表							
頁	改定前				改定後		
Ⅱ-2-⑩-5	3. 施工パッケージ 3-1 ヒューム管（B形管） （1）条件区分 条件区分は、次表を標準とする。				共通工		
	表3. 1 ヒューム管（B形管） 積算条件区分一覧（積算単位：m）						
	作業区分	管径	固定基礎	基礎碎石の有無		規格	生コンクリート規格
	据付	(表 3. 2)	90° 巻き	(表3. 4)		外圧管 1 種	(表 3. 5)
						外圧管 2 種	
						各種	
			180° 巻き			外圧管 1 種	
						外圧管 2 種	
						各種	
		360° 巻き	外圧管 1 種	—			
外圧管 2 種							
各種							
(表 3. 3)		90° 巻き	(表3. 4)	外圧管 1 種	(表 3. 5)		
				外圧管 2 種			
				各種			
	180° 巻き	外圧管 1 種					
		外圧管 2 種					
		各種					
無し	—	外圧管 1 種	—				
		外圧管 2 種					
		各種					
撤去	(表 3. 2) (表 3. 3)	—	—	—	—		
据付・撤去	(表 3. 2) (表 3. 3)	—	—	外圧管 1 種	—		
				外圧管 2 種			
				各種			
(注) 1. 上表は、ヒューム管の据付、基礎碎石、鉄筋、現場内小運搬、巻きコンクリート、型枠（はく離材塗布及びクレン作業を含む）の他、緊結用器具、コンクリートカット運転の費用、滑材、ヒューム管損失分の費用、カッターブレードの損耗費、レバーブロック及びワイヤロープ損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。							
2. 砕石、鉄筋、コンクリートの材料ロスを含む。標準ロス率は、鉄筋が+0.03、コンクリートが+0.06 とする。							
3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。							
4. 基礎碎石は、材料の種類・規格にかかわらず適用出来る。							
5. 固定基礎無しは、基礎碎石を含まないため必要な場合は別途計上する。							
6. 撤去作業、据付・撤去作業は、ヒューム管のみを対象としている。							
7. コンクリートの養生は、一般養生及び特殊養生にかかわらず適用出来る。							
8. 基面整正は含まない。							
269							

Ⅱ-2-⑩-5	共通工	現行どおり	(注) 1. 上表は、ヒューム管の据付、基礎碎石、 鉄筋 現場内小運搬、巻きコンクリート、型枠（はく離材塗布及びクレン作業を含む）の他、緊結用器具、コンクリートカット運転の費用、滑材、ヒューム管損失分の費用、カッターブレードの損耗費、レバーブロック及びワイヤロープ損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
			2. 砕石、 鉄筋 コンクリートの材料ロスを含む。コンクリートの標準ロス率は、 鉄筋が+0.03、コンクリートが+0.06 と+0.06とする。
			3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
			4. 基礎碎石は、材料の種類・規格にかかわらず適用出来る。
			5. 固定基礎無しは、基礎碎石を含まないため必要な場合は別途計上する。
			6. 撤去作業、据付・撤去作業は、ヒューム管のみを対象としている。
			7. コンクリートの養生は、一般養生及び特殊養生にかかわらず適用出来る。
			8. 基面整正は含まない。
			9. 鉄筋工が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁

改定前

改定後

4. 施工単価入力基準表

(1) ヒューム管 (B形管)

パッケージコード	CR222860	施 工 単 位	m		
施 工 区 分	入	力	条	件	
各 種	J 1 作業区分	J 2 管 径	J 3 固定基礎	J 4 基礎砕石の有無	J 5 規 格
	①掘 付 ②撤 去 ③掘付・撤去	(表 4.1)	①90° 巻き ②180° 巻き ③360° 巻き ④無し	①有り ②無し	①外圧管 1 種 ②外圧管 2 種 ③各 種
J 6 ラフテレーン クレーン 賃料補正係数		J 7 生コンクリート 規格	J 8 鉄筋工の労務補正		
①標準 ②標準以外 (実数入力)		(表 4.2)	①標準(1.0) ②時間的制約を受ける場合(1.10) ③夜間作業の場合(1.25) ④夜間作業及び時間的制約を受ける場合(1.375)		

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3～J 5、J 7、J 8 条件は選択する必要はない。
2. J 1 条件で③を選択した場合は、J 3、J 4、J 7、J 8 条件は選択する必要はない。
3. J 2 条件で①～④を選択した場合は、J 6 条件は選択する必要はない。
4. J 2 条件で⑤～⑦を選択した場合は、J 3 条件で③を選択することは出来ない。
5. J 3 条件で①、②、④を選択した場合は、J 8 条件は入力する必要はない。
6. J 3 条件で③を選択した場合は、J 5 条件で②を選択することは出来ない。
7. J 3 条件で④を選択した場合は、J 4、J 7 条件は選択する必要はない。
8. J 5 条件で②を選択した場合は、ヒューム管単価 (Y-0351000) [円/本] を単価登録すること。
9. J 7 条件で⑦を選択した場合は、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
10. 生コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 7 条件で⑦を選択し、生コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] に夜間割増を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
11. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
12. 鉄筋工は以下の条件で固定している。
鉄筋材料規格 : S D 345
規格・仕様区分 : 「D 13」及び「D 16 ～ D 25」
規格・仕様区分 : 一般構造物
トンネル内作業の補正 : 無
法面作業の補正 : 無
大径鉄筋補正 : 10%未満 (補正無)
構造物種別による補正 : 補正無 (一般構造物)
13. 本コードは、砕石、鉄筋、コンクリートの材料ロスを含む。

表 4.1 管径

管径 (mm)	200	250	300	350	400	450	500	600	700	800
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
管径 (mm)	900	1,000	1,100	1,200	1,350					
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮					

表 4.2 生コンクリート規格

規 格	入力番号	規 格	入力番号	規 格	入力番号
18-8-40 (高伊)	①	18-12-25 (20) (高伊)	④	Y-0210000 (各種)	⑦
18-12-40 (高伊)	②	18-8-40 (普通)	⑤		
18-8-25 (20) (高伊)	③	18-12-40 (普通)	⑥		

Ⅱ-2-⑩-26

4. 施工単価入力基準表

(1) ヒューム管 (B形管)

パッケージコード		CR222860		施工単位		m	
施工区分		入 力 条 件					
		J 1		J 2		J 3	
		作業区分		管 径		固定基礎	
						基礎砕石の有無	
各 種						規 格	
		①掘 付		①90° 巻き		①外圧管 1 種	
		②撤 去		②180° 巻き		②外圧管 2 種	
		③掘付・撤去		③360° 巻き		①有り	
		(表 4.1)		④無し		②無し	
						③各 種	
		J 6		J 7		J 8	
		ラフテレーン クレーン 賃料補正係数		生コンクリート 規格		鉄筋工の労務補正	
		①標準				①標準(1.0)	
		②標準以外				②時間的制約を受ける場合(1.10)	
		(実数入力)		(表 4.2)		③夜間作業の場合(1.25)	
						④夜間作業及び時間的制約を受ける場合(1.375)	

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3～J 5、J 7、J 8 条件は選択する必要はない。
2. J 1 条件で③を選択した場合は、J 3、J 4、J 7、J 8 条件は選択する必要はない。
3. J 2 条件で①～④を選択した場合は、J 6 条件は選択する必要はない。
4. J 2 条件で⑤～⑦を選択した場合は、J 3 条件で③を選択することは出来ない。
5. J 3 条件で①、②、④を選択した場合は、J 8 条件は入力する必要はない。
6. J 3 条件で③を選択した場合は、J 5 条件で②を選択することは出来ない。
7. J 3 条件で④を選択した場合は、J 4、J 7 条件は選択する必要はない。
8. J 5 条件で②を選択した場合は、ヒューム管単価 (Y-0351000) [円/本] を単価登録すること。
9. J 7 条件で⑦を選択した場合は、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
10. 生コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 7 条件で⑦を選択し、生コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] に夜間割増を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
11. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
12. 鉄筋工は以下の条件で固定している。
鉄筋材料規格 : S D 345
規格・仕様区分 : 「D 13」及び「D 16 ～ D 25」
規格・仕様区分 : 一般構造物
トンネル内作業の補正 : 無
法面作業の補正 : 無
大径鉄筋補正 : 10%未満 (補正無)
構造物種別による補正 : 補正無 (一般構造物)
13. 本コードは、砕石、鉄筋、コンクリートの材料ロスを含む。

現行どおり

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表				
頁	改定前		改定後	
II-2-⑩-33	⑩-2 排水構造物工（現場打ち水路（本体）） 1. 適用範囲 本資料は、現場打ちのU型側溝（本体）に適用する。 1-1 適用出来る範囲 （1）現場打ちのU型側溝（落蓋型を含む）の設置 1-2 適用出来ない範囲 （1）プレキャスト製品の場合 （2）U型側溝（本体）の10m当りのコンクリート使用数量が3.0m3未満又は9.0m3を超える場合（無筋の場合） （3）U型側溝（本体）の10m当りのコンクリート使用数量が3.6m3未満又は8.1m3を超える場合（有筋の場合） 2. 施工概要 施工フローは、下記を標準とする。 床掘 ↓ 資機材搬入 ↓ 基礎砕石敷均し・転圧 ↓ 均し型枠製作・設置 ↓ 均しコンクリート打設・養生 ↓ 均し型枠撤去 ↓ 鉄筋加工・組立 ↓ 型枠製作・設置 ↓ 目地材設置 ↓ コンクリート打設・養生 ↓ 型枠撤去 ↓ 資機材搬出 ↓ 埋戻 （注）1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。 2. 基礎砕石、均しコンクリート、目地材の有無にかかわらず適用出来る。		共通工	現行どおり 2. 施工概要 施工フローは、下記を標準とする。 床掘 ↓ 資機材搬入 ↓ 基礎砕石敷均し・転圧 ↓ 均し型枠製作・設置 ↓ 均しコンクリート打設・養生 ↓ 均し型枠撤去 ↓ 鉄筋加工・組立 ↓ 型枠製作・設置 ↓ 目地材設置 ↓ コンクリート打設・養生 ↓ 型枠撤去 ↓ 資機材搬出 ↓ 埋戻 （注）1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。 2. 基礎砕石、均しコンクリート、目地材の有無にかかわらず適用出来る。 3. 鉄筋工が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。
	297	II-2-⑩-33		

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

II-2-⑩-34

3. 施工パッケージ

3-1 現場打ち水路（本体）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 現場打ち水路(本体) 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

コンクリート規格	鉄筋の有無	10m 当り コンクリート使用量	コンクリート打設工法	養生工の種類
(表 3.2)	無し	(表 3.3)	(表 3.5)	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ジェットヒーテ)
				養生工無
	有り	(表 3.4)		一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ジェットヒーテ)
				養生工無

(注) 1. 上表は、現場打ちによるU型側溝のコンクリート打設、現場内小運搬（15m 以内）、シュートの架設・移動（人力打設の場合）、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業等を行う機械付補助作業（バックホウ（クレーン機能付）打設の場合）、型枠（はく離剤塗布及びケレン作業を含む）、鉄筋、基礎砕石、均しコンクリート、養生、目地材の施工の他、雑機械器具（シュート、コンクリートバケット、コンクリートパイプレータ、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離材、電気ドリル、電気ノコギリ、つき固め機械等）の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. コンクリート打設工法の選定は、図 3-1 を標準とする。現場条件により図 3-1 により難い場合は、別途考慮する。

3. コンクリート、鉄筋、基礎砕石の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.06、鉄筋が+0.03、基礎砕石が+0.20 とする。

4. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。

5. 雪寒仮囲いの養生が必要な場合は、「養生工無」を選択し別途計上する。

6. 蓋版は別途計上する。

7. 止水板が必要な場合は別途計上する。

8. 基面整正は含まない。

9. 鉄筋の径にかかわらず適用出来る

図3-1 コンクリート打設工法の選定

II-2-⑩-34

改定後

3. 施工パッケージ

3-1 現場打ち水路（本体）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 現場打ち水路(本体) 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

コンクリート規格	鉄筋の有無	10m 当り コンクリート使用量	コンクリート打設工法	養生工の種類
(表 3.2)	無し	(表 3.3)	(表 3.5)	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ジェットヒーテ)
				養生工無
	有り	(表 3.4)		一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ジェットヒーテ)
				養生工無

(注) 1. 上表は、現場打ちによるU型側溝のコンクリート打設、現場内小運搬（15m 以内）、シュートの架設・移動（人力打設の場合）、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業等を行う機械付補助作業（バックホウ（クレーン機能付）打設の場合）、型枠（はく離剤塗布及びケレン作業を含む）、~~鉄筋~~基礎砕石、均しコンクリート、養生、目地材の施工の他、雑機械器具（シュート、コンクリートバケット、コンクリートパイプレータ、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離材、電気ドリル、電気ノコギリ、つき固め機械等）の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. コンクリート打設工法の選定は、図 3-1 を標準とする。現場条件により図 3-1 により難い場合は、別途考慮する。

3. コンクリート、~~鉄筋~~基礎砕石の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.06、~~鉄筋~~~~+0.03~~基礎砕石が+0.20 とする。

4. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。

5. 雪寒仮囲いの養生が必要な場合は、「養生工無」を選択し別途計上する。

6. 蓋版は別途計上する。

7. 止水板が必要な場合は別途計上する。

8. 基面整正は含まない。

9. **鉄筋工が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。**

図3-1 コンクリート打設工法の選定

298

3. 施工パッケージ

3-1 現場打ち水路（本体）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 現場打ち水路(本体) 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

コンクリート規格	鉄筋の有無	10m 当り コンクリート使用量	コンクリート打設工法	養生工の種類	
(表 3.2)	無し	(表 3.3)	(表 3.5)	一般養生・特殊養生(練炭)	
				特殊養生(ジェットヒーテ)	
				養生工無	
	有り	(表 3.4)		一般養生・特殊養生(練炭)	
				特殊養生(ジェットヒーテ)	
				養生工無	

(注) 1. 上表は、現場打ちによるU型側溝のコンクリート打設、現場内小運搬（15m 以内）、シュートの架設・移動（人力打設の場合）、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業等を行う機械付補助作業（バックホウ（クレーン機能付）打設の場合）、型枠（はく離剤塗布及びケレン作業を含む）、~~砕石~~基礎砕石、均しコンクリート、養生、目地材の施工の他、雑機械器具（シュート、コンクリートバケット、コンクリートパイプレータ、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離材、電気ドリル、電気ノコギリ、つき固め機械等）の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. コンクリート打設工法の選定は、図 3-1 を標準とする。現場条件により図 3-1 により難い場合は、別途考慮する。

3. コンクリート、~~砕石~~基礎砕石の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.06、~~鉄筋~~~~が+0.03~~基礎砕石が+0.20 とする。

4. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。

5. 雪寒仮囲いの養生が必要な場合は、「養生工無」を選択し別途計上する。

6. 蓋版は別途計上する。

7. 止水板が必要な場合は別途計上する。

8. 基面整正は含まない。

9. 鉄筋工が必要な場合は、「第II編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。

図3-1 コンクリート打設工法の選定

4.5m超

4.5m以下

バックホウ
(クレーン機能付) 打設
※吊り走行なし

適用範囲外

1.0m超

1.0m以下

人力打設
(現場内小運搬 15m以下)

15m以下

15m超

0m

2m以下

2m超

4m以下

4m超

打設地上高さ

1.0m以上

1.0m未満

バックホウ
(クレーン機能付)
打設
※吊り走行なし

適用範囲外

6.5m以上

6.5m未満

水平打設距離

図3-1 コンクリート打設工法の選定

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後																																																														
Ⅱ-2-⑩-37	(2) 代表機材規格 下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。 表3.6 現場打ち水路(本体) 代表機材規格一覧 <table> <tr> <th>項目</th><th>代表機材規格</th><th>備考</th></tr> <tr> <td rowspan="3">機械</td><td>K 1 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] 山積 0.8m3 (平積 0.6m3)</td><td>・賃料</td></tr> <tr> <td>K 2 バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2011 年規制)] 山積 0.8m3 (平積 0.6m3) 吊能力 2.9t</td><td>・賃料 ・バックホウ(クレーン機能付) 打設の場合</td></tr> <tr> <td>K 3 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油</td><td>・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合</td></tr> <tr> <td rowspan="4">労務</td><td>R 1 普通作業員</td><td></td></tr> <tr> <td>R 2 型わく工</td><td></td></tr> <tr> <td>R 3 土木一般世話役</td><td></td></tr> <tr> <td>R 4 特殊作業員</td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="4">材料</td><td>Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%</td><td></td></tr> <tr> <td>Z 2 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13</td><td>鉄筋有りの場合</td></tr> <tr> <td>Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー</td><td>特殊養生(ジェットヒータ)の場合</td></tr> <tr> <td>Z 4 軽油 バトロール給油</td><td></td></tr> <tr> <td>市場単価</td><td>S 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物</td><td>鉄筋有りの場合</td></tr> </table>	項目	代表機材規格	備考	機械	K 1 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] 山積 0.8m3 (平積 0.6m3)	・賃料	K 2 バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2011 年規制)] 山積 0.8m3 (平積 0.6m3) 吊能力 2.9t	・賃料 ・バックホウ(クレーン機能付) 打設の場合	K 3 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合	労務	R 1 普通作業員		R 2 型わく工		R 3 土木一般世話役		R 4 特殊作業員		材料	Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%		Z 2 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	鉄筋有りの場合	Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ジェットヒータ)の場合	Z 4 軽油 バトロール給油		市場単価	S 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	鉄筋有りの場合	(2) 代表機材規格 下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。 表3.6 現場打ち水路(本体) 代表機材規格一覧 <table> <tr> <th>項目</th><th>代表機材規格</th><th>備考</th></tr> <tr> <td rowspan="3">機械</td><td>K 1 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] バックホウ容量山積0.8m3(平積0.6m3)</td><td>・賃料</td></tr> <tr> <td>K 2 バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2011 年規制)] バックホウ容量山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力 2.9t</td><td>・賃料 ・バックホウ(クレーン機能付) 打設の場合</td></tr> <tr> <td>K 3 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油</td><td>・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合</td></tr> <tr> <td rowspan="4">労務</td><td>R 1 型わく工</td><td></td></tr> <tr> <td>R 2 普通作業員</td><td></td></tr> <tr> <td>R 3 土木一般世話役</td><td></td></tr> <tr> <td>R 4 特殊作業員</td><td></td></tr> <tr> <td rowspan="4">材料</td><td>Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%</td><td></td></tr> <tr> <td>Z 2 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー</td><td>特殊養生(ジェットヒータ)の場合</td></tr> <tr> <td>Z 3 軽油 バトロール給油</td><td>特殊養生(ジェットヒータ)の場合</td></tr> <tr> <td>Z 4 —</td><td></td></tr> <tr> <td>市場単価</td><td>S —</td><td>鉄筋有りの場合</td></tr> </table>	項目	代表機材規格	備考	機械	K 1 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] バックホウ容量山積0.8m3(平積0.6m3)	・賃料	K 2 バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2011 年規制)] バックホウ容量山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力 2.9t	・賃料 ・バックホウ(クレーン機能付) 打設の場合	K 3 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油	・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合	労務	R 1 型わく工		R 2 普通作業員		R 3 土木一般世話役		R 4 特殊作業員		材料	Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%		Z 2 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ジェットヒータ)の場合	Z 3 軽油 バトロール給油	特殊養生(ジェットヒータ)の場合	Z 4 —		市場単価	S —	鉄筋有りの場合
項目	代表機材規格	備考																																																														
機械	K 1 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] 山積 0.8m3 (平積 0.6m3)	・賃料																																																														
	K 2 バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2011 年規制)] 山積 0.8m3 (平積 0.6m3) 吊能力 2.9t	・賃料 ・バックホウ(クレーン機能付) 打設の場合																																																														
	K 3 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合																																																														
労務	R 1 普通作業員																																																															
	R 2 型わく工																																																															
	R 3 土木一般世話役																																																															
	R 4 特殊作業員																																																															
材料	Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%																																																															
	Z 2 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	鉄筋有りの場合																																																														
	Z 3 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ジェットヒータ)の場合																																																														
	Z 4 軽油 バトロール給油																																																															
市場単価	S 鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	鉄筋有りの場合																																																														
項目	代表機材規格	備考																																																														
機械	K 1 バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (2014 年規制)] バックホウ容量山積0.8m3(平積0.6m3)	・賃料																																																														
	K 2 バックホウ (クローラ型) [標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (2011 年規制)] バックホウ容量山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力 2.9t	・賃料 ・バックホウ(クレーン機能付) 打設の場合																																																														
	K 3 業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 燃料種別 灯油	・賃料 ・特殊養生(ジェットヒータ)の場合																																																														
労務	R 1 型わく工																																																															
	R 2 普通作業員																																																															
	R 3 土木一般世話役																																																															
	R 4 特殊作業員																																																															
材料	Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%																																																															
	Z 2 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ジェットヒータ)の場合																																																														
	Z 3 軽油 バトロール給油	特殊養生(ジェットヒータ)の場合																																																														
	Z 4 —																																																															
市場単価	S —	鉄筋有りの場合																																																														
Ⅱ-2-⑩-37																																																																

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁

改定前

改定後

4. 施工単価入力基準表

(1) 現場打ち水路 (本体)

パッケージコード	CB222940	施工単位	m			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	コンクリート 規格 (表 4.1)	鉄筋の 有無 ①無し ②有り	10m 当り コンクリート 使用量 (表 4.2)	コンクリート 打設工法 ①バックホウ (クレーン 機能付) 打設 ②人力打設	養生工の 種類 ①一般養生・ 特殊養生 (練炭) ②特殊養生 (ｼｬｰﾄﾋｰﾀｰ) ③養生工無	鉄筋工の労務補正 ①標準(1.0) ②時間的制約を受け る場合 (1.10) ③夜間作業の場合 (1.25) ④夜間作業及び時 間的制約を受け る場合(1.375)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 2. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件で②～④及び J 6 条件を選択することは出来ない。
 3. J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件で①～④を選択することは出来ない。
 4. 雪寒仮囲いの養生が必要な場合は、J 5 条件で③を選択し別途計上すること。
 5. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 1 条件で②各種を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 6. 本コードは、コンクリート、鉄筋、基礎砕石の材料ロスを含む。

表4.1 コンクリート規格

生コンクリート	入力番号	生コンクリート	入力番号	生コンクリート	入力番号
21-8-25(20) (普通)	①	24-8-40 (普通)	⑪	24-8-40 (高炉)	⑳
21-12-25(20) (普通)	②	24-12-40 (普通)	⑫	24-12-40 (高炉)	㉑
24-8-25(20) (普通)	③	21-8-25(20) (高炉)	⑬	21-8-25 (早強)	㉒
24-12-25(20) (普通)	④	21-12-25(20) (高炉)	⑭	21-12-25 (早強)	㉓
27-8-25(20) (普通)	⑤	24-8-25(20) (高炉)	⑮	24-8-25 (早強)	㉔
27-12-25(20) (普通)	⑥	24-12-25(20) (高炉)	⑯	24-12-25 (早強)	㉕
18-8-40 (普通)	⑦	18-8-40 (高炉)	⑰	18-8-25 (高炉)	㉖
18-12-40 (普通)	⑧	18-12-40 (高炉)	⑱	18-12-25 (高炉)	㉗
21-8-40 (普通)	⑨	21-8-40 (高炉)	⑲	Y-0210000 (各種)	㉘
21-12-40 (普通)	⑩	21-12-40 (高炉)	㉑		

4. 施工単価入力基準表

(1) 現場打ち水路 (本体)

パッケージコード	CB222940		施工単位	m		
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	コンクリート規格	鉄筋の有無	10m 当り コンクリート 使用量	コンクリート 打設工法	養生工の 種類	鉄筋工の労務補正
	(表 4.1)	①無し ②有り	(表 4.2)	①バックホウ (クレーン 機能付) 打設 ②人力打設	①一般養生・ 特殊養生 (練炭) ②特殊養生 (ｼｬｰﾄﾋｰﾀｰ) ③養生工無	①標準(1.0) ②時間的制約を受け る場合 (1.10) ③夜間作業の場合 (1.25) ④夜間作業及び時 間的制約を受け る場合(1.375)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 2. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件で②～④~~及び J 6 条件~~を選択することは出来ない。
 3. J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件で①～④を選択することは出来ない。
 4. 雪寒仮囲いの養生が必要な場合は、J 5 条件で③を選択し別途計上すること。
 5. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 1 条件で②各種を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 6. 本コードは、コンクリート、~~鉄筋~~基礎砕石の材料ロスを含む。

現行どおり

II-2-⑩-38

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表		
頁	改定前	改定後
Ⅱ-2-⑩-40	⑩-3 排水構造物工（現場打ち集水溝・街渠溝（本体）） 1. 適用範囲 本資料は、現場打ちの集水溝・街渠溝（本体）に適用する。 1-1 適用出来る範囲 （1）現場打ちの集水溝・街渠溝の設置 1-2 適用出来ない範囲 （1）プレキャスト製品の場合 （2）集水溝・街渠溝（本体）の1箇所当りのコンクリート使用数量が0.20m³未満、又は3.42m³を超える場合 2. 施工概要 施工フローは、下記を標準とする。 床掘 ↓ 資機材搬入 ↓ 基礎砕石敷均し・転圧 ↓ 鉄筋加工・組立 ↓ 型枠製作・設置 ↓ コンクリート打設・養生 ↓ 型枠撤去 ↓ 資機材搬出 ↓ 埋戻 （注）1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。 2. 基礎砕石の有無にかかわらず適用出来る。 3. 鉄筋加工・組立費が必要な場合は、「第Ⅵ編 第2章 市場単価 ①鉄筋工」より計上する。	現行どおり （注）1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。 2. 基礎砕石の有無にかかわらず適用出来る。 3. 鉄筋工が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。
	Ⅱ-2-⑩-40 304	

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表											
頁	改定前		改定後								
Ⅱ-2-⑩-41	3. 施工パッケージ 3-1 現場打ち集水樹・街渠樹(本体) (1) 条件区分 条件区分は、次表を標準とする。 表3.1 現場打ち集水樹・街渠樹(本体)積算条件区分一覧 (積算単位:箇所) <table><tr><th>コンクリート規格</th><th>1箇所当り コンクリート使用量</th><th>コンクリート打設工法</th><th>養生工の種類</th></tr><tr><td>(表3.2)</td><td>(表3.3)</td><td>(表3.4)</td><td>一般養生・特殊養生(練炭) 特殊養生(ジェットヒータ) 養生工無</td></tr></table> (注) 1. 上表は、現場打ちによる集水樹・街渠樹のコンクリート打設、現場内小運搬(15m以内)、シュートの架設・移動(人力打設の場合)、コンクリートバケットへのコンクリート積込及び玉掛作業等を行う機械付補助作業(バックホウ(クレーン機能付)打設の場合)、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業を含む)、基礎砕石、養生の施工の他、雑機械器具(シュート、コンクリートバケット、コンクリートパイププレート、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離材、電気ドリル、電気ノコギリ、つき固め機械等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。 2. コンクリート打設工法の選定は、図3-1を標準とする。現場条件により図3-1により難い場合は、別途考慮する。 3. コンクリート、基礎砕石の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリート使用量が1.03m³以下/箇所の場合+0.06、1.03m³超え/箇所の場合+0.07、また基礎砕石が+0.20とする。 4. 基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。 5. 雪寒仮囲いの養生が必要な場合は、「養生工無」を選択し別途計上する。 6. 蓋版は別途計上する。 7. 足掛け金物は別途計上する。ただし、集水樹コンクリート打設時に足掛け金物を先付けするタイプの場合、足掛け金物の設置手間は上表を含む。 8. 基面整正は含まない。 9. 鉄筋加工・組立費が必要な場合は、「第Ⅵ編 第2章 市場単価 ①鉄筋工」より計上する。 (注) コンクリート使用量が1.03m³超え/箇所の場合、設計日打設量は10m³/日未満とする。 図3-1 コンクリート打設工法の選定	コンクリート規格	1箇所当り コンクリート使用量	コンクリート打設工法	養生工の種類	(表3.2)	(表3.3)	(表3.4)	一般養生・特殊養生(練炭) 特殊養生(ジェットヒータ) 養生工無	共通工	現行どおり
	コンクリート規格	1箇所当り コンクリート使用量	コンクリート打設工法	養生工の種類							
(表3.2)	(表3.3)	(表3.4)	一般養生・特殊養生(練炭) 特殊養生(ジェットヒータ) 養生工無								
		現行どおり									

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表																																																																						
頁	改定前		改定後																																																																			
Ⅱ-2-㉓-8	表3. 8 生コンクリート規格 <table><tr><th>積算条件</th><th colspan="2">区分</th></tr><tr><td rowspan="6">生コンクリート規格</td><td>24-8-25 (20) (普通)</td><td>18-8-40 (高炉)</td></tr><tr><td>24-12-25 (20) (普通)</td><td>18-12-40 (高炉)</td></tr><tr><td>18-8-40 (普通)</td><td>各種</td></tr><tr><td>18-12-40 (普通)</td><td></td></tr><tr><td>24-8-25 (20) (高炉)</td><td></td></tr><tr><td>24-12-25 (20) (高炉)</td><td></td></tr></table> 表3. 9 溶接金網規格 <table><tr><th>積算条件</th><th>区分</th></tr><tr><td rowspan="2">溶接金網規格</td><td>G3551 線径 6.0×網目 150×150mm</td></tr><tr><td>各種</td></tr></table> (2) 代表機労材規格 下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。 表3. 10 コンクリート床版 代表機労材規格一覧 <table><tr><th colspan="2">項目</th><th>代表機労材規格</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="4">機械</td><td>K1</td><td>コンクリートポンプ車〔トフック架装・ブーム式〕 圧送能力 65～85m3/h</td><td></td></tr><tr><td>K2</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>K3</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>R1</td><td>普通作業員</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">労務</td><td>R2</td><td>土木一般世話役</td><td></td></tr><tr><td>R3</td><td>特殊作業員</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td>型枠工</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">材料</td><td>Z1</td><td>生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C≤55%</td><td></td></tr><tr><td>Z2</td><td>丸鉄線溶接金網 G3551 線径 6.0×網目 150× 150mm</td><td></td></tr><tr><td>Z3</td><td>軽油 バトロール給油</td><td></td></tr><tr><td>Z4</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>市場単価</td><td>S</td><td>—</td><td></td></tr></table> 3-13 支柱結合アンカー（材料費） (1) 条件区分 支柱結合アンカー（材料費）における積算条件区分はない。 積算単位は、m3 とする。 （注）使用数量は、コンクリート床版 m3 当りの必要数量を計上する。 3-14 コンクリート工 基礎コンクリート部におけるコンクリート工については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。 3-15 型枠工 基礎コンクリート部における型枠工については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1 型枠工」により別途計上する。 3-16 鉄筋工 基礎コンクリート部における鉄筋工については、「第Ⅵ編第2章市場単価①-1 鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。		積算条件	区分		生コンクリート規格	24-8-25 (20) (普通)	18-8-40 (高炉)	24-12-25 (20) (普通)	18-12-40 (高炉)	18-8-40 (普通)	各種	18-12-40 (普通)		24-8-25 (20) (高炉)		24-12-25 (20) (高炉)		積算条件	区分	溶接金網規格	G3551 線径 6.0×網目 150×150mm	各種	項目		代表機労材規格	備考	機械	K1	コンクリートポンプ車〔トフック架装・ブーム式〕 圧送能力 65～85m3/h		K2	—		K3	—		R1	普通作業員		労務	R2	土木一般世話役		R3	特殊作業員		R4	型枠工		材料	Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C≤55%		Z2	丸鉄線溶接金網 G3551 線径 6.0×網目 150× 150mm		Z3	軽油 バトロール給油		Z4	—		市場単価	S	—		共通工	現行どおり	3-16 鉄筋工 基礎コンクリート部における鉄筋工については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。
	積算条件	区分																																																																				
	生コンクリート規格	24-8-25 (20) (普通)	18-8-40 (高炉)																																																																			
		24-12-25 (20) (普通)	18-12-40 (高炉)																																																																			
		18-8-40 (普通)	各種																																																																			
		18-12-40 (普通)																																																																				
		24-8-25 (20) (高炉)																																																																				
		24-12-25 (20) (高炉)																																																																				
	積算条件	区分																																																																				
	溶接金網規格	G3551 線径 6.0×網目 150×150mm																																																																				
各種																																																																						
項目		代表機労材規格	備考																																																																			
機械	K1	コンクリートポンプ車〔トフック架装・ブーム式〕 圧送能力 65～85m3/h																																																																				
	K2	—																																																																				
	K3	—																																																																				
	R1	普通作業員																																																																				
労務	R2	土木一般世話役																																																																				
	R3	特殊作業員																																																																				
	R4	型枠工																																																																				
	材料	Z1	生コンクリート 高炉 24-12-25 (20) W/C≤55%																																																																			
Z2		丸鉄線溶接金網 G3551 線径 6.0×網目 150× 150mm																																																																				
Z3		軽油 バトロール給油																																																																				
Z4		—																																																																				
市場単価	S	—																																																																				

439

Ⅱ-2-㉓-8

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表																																																				
頁	改定前		改定後																																																	
Ⅱ-2-㉔-5	（2）代表機労材規格 下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。 <table><tr><th colspan="4">表3.5 図集 代表機労材規格一覧</th></tr><tr><th colspan="2">項目</th><th>代表機労材規格</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="3">機械</td><td>K 1</td><td>コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m³/h</td><td></td></tr><tr><td>K 2</td><td>業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油</td><td>・仮囲い内ジェットヒータの場合 ・賃料</td></tr><tr><td>K 3</td><td>発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA</td><td>・仮囲い内ジェットヒータの場合 ・賃料</td></tr><tr><td rowspan="4">労務</td><td>R 1</td><td>型わく工</td><td></td></tr><tr><td>R 2</td><td>普通作業員</td><td></td></tr><tr><td>R 3</td><td>土木一般世話役</td><td></td></tr><tr><td>R 4</td><td>とび工</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">材料</td><td>Z 1</td><td>生コンクリート 高炉 24－12－25(20) W/C≦55%</td><td></td></tr><tr><td>Z 2</td><td>軽油 バトロール給油</td><td></td></tr><tr><td>Z 3</td><td>灯油 白灯油 業務用 ミニローリー</td><td>仮囲い内ジェットヒータの場合</td></tr><tr><td>Z 4</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>市場単価</td><td>S</td><td>－</td><td></td></tr></table> 3－2 鉄筋工 鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章市場単価①鉄筋工」により別途計上する。		表3.5 図集 代表機労材規格一覧				項目		代表機労材規格	備考	機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h		K 2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・仮囲い内ジェットヒータの場合 ・賃料	K 3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータの場合 ・賃料	労務	R 1	型わく工		R 2	普通作業員		R 3	土木一般世話役		R 4	とび工		材料	Z 1	生コンクリート 高炉 24－12－25(20) W/C≦55%		Z 2	軽油 バトロール給油		Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータの場合	Z 4	－		市場単価	S	－		共通工 現行どおり 3－2 鉄筋工 鉄筋工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。	
	表3.5 図集 代表機労材規格一覧																																																			
	項目		代表機労材規格	備考																																																
	機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h																																																	
		K 2	業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ] [油だき・熱風・直火型] 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h) 油種 灯油	・仮囲い内ジェットヒータの場合 ・賃料																																																
		K 3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータの場合 ・賃料																																																
	労務	R 1	型わく工																																																	
		R 2	普通作業員																																																	
		R 3	土木一般世話役																																																	
		R 4	とび工																																																	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 24－12－25(20) W/C≦55%																																																		
	Z 2	軽油 バトロール給油																																																		
	Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータの場合																																																	
	Z 4	－																																																		
市場単価	S	－																																																		
463		Ⅱ-2-㉔-5																																																		

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表																																	
頁	改定前	改定後																															
Ⅱ-2-㉔-10	(2) 代表機労材規格 下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。 表2.3 コンクリート(場所打固定) 代表機労材規格一覧 <table><tr><th>項目</th><th>代表機労材規格</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="3">機械</td><td>K1 コンクリートポンプ車〔トラック架装・ブーム式〕圧送能力 90～110m³/h</td><td></td></tr><tr><td>K2 業務用可搬型ヒータ〔ジェットヒータ〕 〔油だき・熱風・直火型〕 熱出力 126MJ/h (30, 100kcal/h) 油種 灯油</td><td>・賃料 ・一般養生を除く</td></tr><tr><td>K3 発動発電機〔ディーゼルエンジン駆動〕 定格容量 5kVA</td><td>・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料</td></tr><tr><td rowspan="4">労務</td><td>R1 普通作業員</td><td></td></tr><tr><td>R2 特殊作業員</td><td></td></tr><tr><td>R3 土木一般世話役</td><td></td></tr><tr><td>R4 運転手(特殊)</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">材料</td><td>Z1 生コンクリート 高炉 24 12 25(20) W/C≦55%</td><td></td></tr><tr><td>Z2 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー</td><td>一般養生を除く</td></tr><tr><td>Z3 軽油 バトロール給油</td><td></td></tr><tr><td>Z4 －</td><td></td></tr><tr><td>市場単価</td><td>S －</td><td></td></tr></table>	項目	代表機労材規格	備考	機械	K1 コンクリートポンプ車〔トラック架装・ブーム式〕圧送能力 90～110m ³ /h		K2 業務用可搬型ヒータ〔ジェットヒータ〕 〔油だき・熱風・直火型〕 熱出力 126MJ/h (30, 100kcal/h) 油種 灯油	・賃料 ・一般養生を除く	K3 発動発電機〔ディーゼルエンジン駆動〕 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料	労務	R1 普通作業員		R2 特殊作業員		R3 土木一般世話役		R4 運転手(特殊)		材料	Z1 生コンクリート 高炉 24 12 25(20) W/C≦55%		Z2 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	一般養生を除く	Z3 軽油 バトロール給油		Z4 －		市場単価	S －		現行どおり
	項目	代表機労材規格	備考																														
	機械	K1 コンクリートポンプ車〔トラック架装・ブーム式〕圧送能力 90～110m ³ /h																															
		K2 業務用可搬型ヒータ〔ジェットヒータ〕 〔油だき・熱風・直火型〕 熱出力 126MJ/h (30, 100kcal/h) 油種 灯油	・賃料 ・一般養生を除く																														
		K3 発動発電機〔ディーゼルエンジン駆動〕 定格容量 5kVA	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料																														
	労務	R1 普通作業員																															
		R2 特殊作業員																															
		R3 土木一般世話役																															
		R4 運転手(特殊)																															
	材料	Z1 生コンクリート 高炉 24 12 25(20) W/C≦55%																															
Z2 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー		一般養生を除く																															
Z3 軽油 バトロール給油																																	
Z4 －																																	
市場単価	S －																																
	2-2 型枠工 型枠工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②型枠工」により別途計上する。																																
	2-3 鉄筋工 鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章市場単価①鉄筋工」により別途計上する。	2-3 鉄筋工 鉄筋工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④鉄筋工」により別途計上する。																															
	2-4 足場工 足場工は、「第Ⅱ編第5章仮設工⑦-1足場工」により別途計上する。																																
	2-5 支保工 支保工は、「第Ⅱ編第5章仮設工⑦-2支保工」により別途計上する。	現行どおり																															
	2-6 その他 上記以外で必要なものについては、該当する各工種により別途計上する。																																
	Ⅱ-2-㉔-10																																
	468																																

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表								
頁	改定前			改定後				
Ⅱ-3-①-5	5-2 杭頭処理			基礎工	現行どおり			
	5-2-1 鋼管杭杭頭処理							
	鋼管杭と鉄筋及び鋼管杭とずれ止め及びストッパー等の現場溶接工歩掛は、次表を標準とする。							
	表5.5 鋼管杭杭頭処理溶接工歩掛 (溶接長10m当り)							
	名称	規格	単位			鋼管杭板厚 (mm)		
						8～10	12	14・16
	溶接工		人			0.35	0.68	1.11
	電気溶接機	ディーゼルエンジン駆動・直流アーク式・吐出ガス静電型（第3次基準値）最大溶接電流300A	日			0.39	0.65	1.12
	諸雑費率		%			14		
	(注) 1. 鉄筋加工・組立費は、「第Ⅵ編第2章市場単価①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。 2. 諸雑費は、溶接棒の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。 3. 鋼管杭とずれ止め及びストッパーの溶接長（L _y ）は、ずれ止め1箇所当り、L _y =π×D D：杭径（m）を標準とする。					(注) 1. 鉄筋加工・組立費は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④-鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。		
5-2-2 コンクリート杭の杭頭処理			現行どおり					
コンクリート杭の杭頭処理（カットオフ工等）が必要な場合には、別途計上する。								
5-3 中詰コンクリート打設								
中詰コンクリート打設は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。								
6. 諸雑費								
諸雑費は、労務費、機械損料、機械賃料及び運搬経費の合計額に表6. 1、表6. 2の率を乗じた金額を上限として計上する。								
(1) 鋼管杭								
鋼管杭打設による諸雑費は、裏当てリング及びストッパー、銅バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、鋼管吊具、吊ワイヤー、先端補強バンド、ヤットコ、溶接機の損料、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、電力に関する経費、溶接ワイヤー等の費用である。なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無にかかわらず本諸雑費率を使用出来る。								
表6.1 諸雑費率（鋼管杭） (%)								
<table><tr><td>継杭の有無</td><td>諸雑費率</td></tr><tr><td>継杭無し</td><td>34</td></tr><tr><td>継杭有り</td><td>15</td></tr></table>				継杭の有無	諸雑費率	継杭無し	34	継杭有り
継杭の有無	諸雑費率							
継杭無し	34							
継杭有り	15							
(2) 既製コンクリート杭								
既製コンクリート杭打設による諸雑費は、吊ワイヤー、ヤットコ、溶接機の損料、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、電力に関する経費、溶接ワイヤー等の費用である。なお、ヤットコの有無及び溶接機の有無にかかわらず本諸雑費率を使用出来る。								
表6.2 諸雑費率（既製コンクリート杭） (%)								
<table><tr><td>諸雑費率</td><td>3</td></tr></table>			諸雑費率	3				
諸雑費率	3							
503	Ⅱ-3-①-5							

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後

頁	改定前	改定後

頁	改定前	改定後

口ス率	+0.09
-----	-------

杭1本当たり杭頭処理歩掛は、次表とする。なお、杭頭処理長は3m以下を標準とし、3mを超える場合は、別途考慮する。

名 称	規 格	単位	設計仕様				
			1,000mm	1,100mm	1,200mm	1,500mm	2,000mm
土 木 一 般 設 活		人	0.10	0.11	0.12	0.15	0.20
特 殊 作 業 員		人	0.34	0.38	0.41	0.51	0.69
ラフテレンタレン運転	油圧伸縮ｼﾞｸﾞ型・拂出ｽﾄﾏ対策型(2011年規制)60t 台	日	0.10	0.11	0.12	0.15	0.20
語 彙 費		%	6				

5-4 鉄筋工

鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章①－1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。なお、鉄筋加工場と施工現場が異なるなど、積込・荷卸・運搬等が必要な場合には、必要な費用を別途計上する。

{

鉄筋工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④—鉄筋工（大鉄筋結合）」により別途計上する。なお、鉄筋加工場と施工現場が異なるなど、積込・荷卸・運搬等が必要な場合には、必要な費用を別途計上する。

541

541

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表																																																																																																																								
頁	改定前					改定後																																																																																																																		
Ⅱ-3-②-9	9. 施工単価入力基準表 (1) 全回転式オールケーシング工 <table><tr><td>施工歩掛コード</td><td>WB230310</td><td>施工単位</td><td>本</td><td></td></tr><tr><td>施工区分</td><td colspan="4">入 力 条 件</td></tr><tr><td rowspan="4">各 種</td><td>J 1</td><td>J 2</td><td>J 3</td><td>J 4</td><td>J 5</td></tr><tr><td>設計杭径</td><td>レキ質土、粘性土、砂及び砂質土の掘削長</td><td>岩塊・玉石の掘削長</td><td>軟岩Ⅰの掘削長</td><td>軟岩Ⅱの掘削長</td></tr><tr><td>D</td><td>ℓ</td><td>ℓ</td><td>ℓ</td><td>ℓ</td></tr><tr><td>(mm)</td><td>(m)</td><td>(m)</td><td>(m)</td><td>(m)</td></tr><tr><td></td><td>(表9. 1)</td><td>(実数入力)</td><td>(実数入力)</td><td>(実数入力)</td><td>(実数入力)</td></tr><tr><td colspan="5"></td></tr><tr><td>J 6</td><td>J 7</td><td>J 8</td><td colspan="2">J 9</td></tr><tr><td>中硬岩の掘削長</td><td>硬岩Ⅰの掘削長</td><td>杭長</td><td colspan="2">コンクリート規格</td></tr><tr><td>ℓ</td><td>ℓ</td><td>L</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>(m)</td><td>(m)</td><td>(m)</td><td colspan="2">(表9. 2)</td></tr><tr><td>(実数入力)</td><td>(実数入力)</td><td>(実数入力)</td><td colspan="2"></td></tr></table> (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいる。 2. J 9 条件で③を選択した場合は、生コンクリート単価（Y-0210000）〔円／㎡〕を単価登録すること。 3. 鉄筋工は、第Ⅵ編第2章市場単価①ー1「鉄筋工（太径鉄筋含む）（WB810010）」を適用し、別途計上すること。 表9. 1 設計杭径 <table><tr><td>設計杭径（D）</td><td>入力番号</td></tr><tr><td>1,000mm</td><td>①</td></tr><tr><td>1,100mm</td><td>②</td></tr><tr><td>1,200mm</td><td>③</td></tr><tr><td>1,500mm</td><td>④</td></tr><tr><td>2,000mm</td><td>⑤</td></tr></table> 表9. 2 コンクリート規格 <table><tr><td>コンクリート規格</td><td>入力番号</td></tr><tr><td>30-15-25（20）高炉</td><td>①</td></tr><tr><td>生コンクリート各種（Y-0210000）</td><td>③</td></tr></table> (2) 杭頭処理 <table><tr><td>施工歩掛コード</td><td>WB230350</td><td>施工単位</td><td>本</td></tr><tr><td>施工区分</td><td colspan="3">入 力 条 件</td></tr><tr><td rowspan="4">各 種</td><td>J 1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>設計杭径</td><td></td><td></td></tr><tr><td>D</td><td></td><td></td></tr><tr><td>(mm)</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>(表9. 1)</td><td></td><td></td></tr></table> (注) 杭頭処理に伴う小割・帯積込・運搬・処分は、機械施工の場合、第Ⅵ編第1章④「構造物とりこわし工（WB824020）」を適用し、別途計上すること。					施工歩掛コード	WB230310	施工単位	本		施工区分	入 力 条 件				各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	設計杭径	レキ質土、粘性土、砂及び砂質土の掘削長	岩塊・玉石の掘削長	軟岩Ⅰの掘削長	軟岩Ⅱの掘削長	D	ℓ	ℓ	ℓ	ℓ	(mm)	(m)	(m)	(m)	(m)		(表9. 1)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)						J 6	J 7	J 8	J 9		中硬岩の掘削長	硬岩Ⅰの掘削長	杭長	コンクリート規格		ℓ	ℓ	L			(m)	(m)	(m)	(表9. 2)		(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)			設計杭径（D）	入力番号	1,000mm	①	1,100mm	②	1,200mm	③	1,500mm	④	2,000mm	⑤	コンクリート規格	入力番号	30-15-25（20）高炉	①	生コンクリート各種（Y-0210000）	③	施工歩掛コード	WB230350	施工単位	本	施工区分	入 力 条 件			各 種	J 1			設計杭径			D			(mm)				(表9. 1)			基礎工	現行どおり (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいる。 2. J 9 条件で③を選択した場合は、生コンクリート単価（Y-0210000）〔円／㎡③〕を単価登録すること。 3. 鉄筋工は、第Ⅱ編第4章コンクリート工④ー1「鉄筋工（太径鉄筋含む）（WB810010）」を適用し、別途計上すること。			
	施工歩掛コード	WB230310	施工単位	本																																																																																																																				
	施工区分	入 力 条 件																																																																																																																						
	各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5																																																																																																																		
		設計杭径	レキ質土、粘性土、砂及び砂質土の掘削長	岩塊・玉石の掘削長	軟岩Ⅰの掘削長	軟岩Ⅱの掘削長																																																																																																																		
		D	ℓ	ℓ	ℓ	ℓ																																																																																																																		
		(mm)	(m)	(m)	(m)	(m)																																																																																																																		
		(表9. 1)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)																																																																																																																		
	J 6	J 7	J 8	J 9																																																																																																																				
中硬岩の掘削長	硬岩Ⅰの掘削長	杭長	コンクリート規格																																																																																																																					
ℓ	ℓ	L																																																																																																																						
(m)	(m)	(m)	(表9. 2)																																																																																																																					
(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)																																																																																																																						
設計杭径（D）	入力番号																																																																																																																							
1,000mm	①																																																																																																																							
1,100mm	②																																																																																																																							
1,200mm	③																																																																																																																							
1,500mm	④																																																																																																																							
2,000mm	⑤																																																																																																																							
コンクリート規格	入力番号																																																																																																																							
30-15-25（20）高炉	①																																																																																																																							
生コンクリート各種（Y-0210000）	③																																																																																																																							
施工歩掛コード	WB230350	施工単位	本																																																																																																																					
施工区分	入 力 条 件																																																																																																																							
各 種	J 1																																																																																																																							
	設計杭径																																																																																																																							
	D																																																																																																																							
	(mm)																																																																																																																							
	(表9. 1)																																																																																																																							
					→	現行どおり																																																																																																																		
545					Ⅱ-3-②-9																																																																																																																			

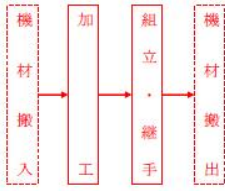
令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表																														
頁	改定前	改定後																												
Ⅱ-3-③-5	5-2 杭内足場工 (1) 足場の種類及び数量 足場の種類は、手摺先行型枠組足場を標準とする。 掛面積は、次式による。 掛面積（m²）＝掘削1m当り掛面積（m²）×掘削深（m） 表5.7 掘削1m当り掛面積（m²） <table><tr><td>杭 径（m）</td><td>1.5以上 2.0以下</td><td>2.0を超え 2.5以下</td><td>2.5を超え 3.0以下</td><td>3.0を超え 3.5以下</td><td>3.5を超え 4.0以下</td><td>4.0を超え 4.5以下</td></tr><tr><td>掛面積（㎡）</td><td>1.2</td><td>1.5</td><td>3.6</td><td>3.6</td><td>5.0</td><td>6.6</td></tr><tr><td>杭 径（m）</td><td>4.5を超え 5.0以下</td><td>5.0を超え 5.5以下</td><td>5.5を超え 6.0以下</td><td>6.0を超え 6.5以下</td><td>6.5を超え 7.0以下</td><td>7.0を超え 7.5以下</td></tr><tr><td>掛面積（㎡）</td><td>8.2</td><td>9.7</td><td>11.3</td><td>12.9</td><td>14.4</td><td>16.0</td></tr></table> (2) 設置・撤去歩掛 足場設置・撤去歩掛は、「第Ⅱ編第5章⑦-1 足場工」による。ただし、ラフテレーンクレーンが使用出来ない場合は、別途考慮する。 5-3 鉄筋工 鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章①-1 鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。 5-4 コンクリート工 コンクリート打設は、「第Ⅱ編第3章③-2 コンクリート工（深礎工）」により別途計上する。	杭 径（m）	1.5以上 2.0以下	2.0を超え 2.5以下	2.5を超え 3.0以下	3.0を超え 3.5以下	3.5を超え 4.0以下	4.0を超え 4.5以下	掛面積（㎡）	1.2	1.5	3.6	3.6	5.0	6.6	杭 径（m）	4.5を超え 5.0以下	5.0を超え 5.5以下	5.5を超え 6.0以下	6.0を超え 6.5以下	6.5を超え 7.0以下	7.0を超え 7.5以下	掛面積（㎡）	8.2	9.7	11.3	12.9	14.4	16.0	現行どおり 5-3 鉄筋工 鉄筋工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④-1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。
	杭 径（m）	1.5以上 2.0以下	2.0を超え 2.5以下	2.5を超え 3.0以下	3.0を超え 3.5以下	3.5を超え 4.0以下	4.0を超え 4.5以下																							
掛面積（㎡）	1.2	1.5	3.6	3.6	5.0	6.6																								
杭 径（m）	4.5を超え 5.0以下	5.0を超え 5.5以下	5.5を超え 6.0以下	6.0を超え 6.5以下	6.5を超え 7.0以下	7.0を超え 7.5以下																								
掛面積（㎡）	8.2	9.7	11.3	12.9	14.4	16.0																								
	Ⅱ-3-③-5	582																												

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表																																		
頁	改定前		改定後																															
Ⅱ-3-④-8	<table><tr><th colspan="5">表0.5 足場材設置・撤去歩掛 (100掛㎡当り)</th></tr><tr><th>名 称</th><th>規 格</th><th>単 位</th><th>外側足場</th><th>内側足場</th></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td></td><td>人</td><td>1.5</td><td>2.6</td></tr><tr><td>と び 工</td><td></td><td>〃</td><td>6.1</td><td>6.5</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>〃</td><td>1.1</td><td>2.1</td></tr><tr><td>クローラクレーン運転</td><td>油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型(第1次基準前50t吊)</td><td>日</td><td>1.8</td><td>2.6</td></tr></table> (注) 1. クローラクレーンは、賃料とする。 2. 足場の架台及び支持杭が必要な場合には別途計上する。 3. 上記歩掛には、安全ネットの設置撤去手間が含まれている。 ⑤ 足場材の賃料を計上する場合、次式の通り算定することができる。 賃料＝ L× (M1×T+M2) ×A (円) ……式8. 1 L：賃料係数 (1.3) M1：先行据置2段手すりの1日当たりの賃料 (円/日) M2：先行据置2段手すりの基本料金 (円) T：足場材の供用日数 (日) A：足場の掛面積 (掛㎡) 足場材は、敷板、建枠、筋違、板付布枠、連結ピン、アームロック、ジャッキベース、手摺柱、手摺、先行据置2段手すり、幅木、階段、養生ネット (メッシュシート)、安全ネット等である。 (4) 型枠工 「第Ⅱ編第4章②－1 型枠工」により別途計上する。 (5) 支保工 「第Ⅱ編第5章⑦ 2 支保工」により別途計上する。 (6) 鉄筋工 鉄筋工は、「第Ⅶ編第2章①－1 鉄筋工 (大径鉄筋含む)」により別途計上する。 (7) 養生工 「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。 8－4－2 埋戻工 現場条件により埋戻工が必要な場合は、別途計上する。 8－4－3 止水壁撤去 止水壁撤去が必要な場合は、別途計上する。		表0.5 足場材設置・撤去歩掛 (100掛㎡当り)					名 称	規 格	単 位	外側足場	内側足場	土 木 一 般 世 話 役		人	1.5	2.6	と び 工		〃	6.1	6.5	普 通 作 業 員		〃	1.1	2.1	クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型(第1次基準前50t吊)	日	1.8	2.6	基礎工	現行どおり 鉄筋工 鉄筋工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工④→鉄筋工(大径鉄筋含む)」により別途計上する。 現行どおり
	表0.5 足場材設置・撤去歩掛 (100掛㎡当り)																																	
	名 称	規 格	単 位	外側足場	内側足場																													
	土 木 一 般 世 話 役		人	1.5	2.6																													
	と び 工		〃	6.1	6.5																													
	普 通 作 業 員		〃	1.1	2.1																													
	クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型(第1次基準前50t吊)	日	1.8	2.6																													

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後
		④ 鉄筋工 1. 適用範囲 本資料は、河川・海岸・道路・水路・橋梁・トンネル等の鉄筋構造物のうち、現場における加工・組立及び継手に適用する。 なお、鉄筋は普通鉄筋、異形棒鋼間わず適用できるものとする。また、鉄筋工の継手は重ね継手を標準とし、ガス圧接継手や機械式継手（グラウト）、機械式継手（ねじ加工）の場合は材料費・設置手間を別途計上する。 1-1 適用出来る範囲 1-1-1 加工・組立 (1) 一般構造物（鉄筋径：10mm～51mm） (2) 橋梁用床版（鉄筋径：13mm～25mm） (3) 場所打ち杭の鉄筋かご（鉄筋径：13mm～35mm） (4) トンネル内構造物（鉄筋径：10mm～51mm） (5) 差筋および杭頭処理（鉄筋径：10mm～51mm） 1-1-2 継手 (1) 鉄筋構造物の組立作業における手動式（半自動式）のガス圧接継手 (2) 鉄筋径16mm～51mmまでのガス圧接継手 (3) 現場で打設する鉄筋コンクリート構造物の組立作業における軸方向鉄筋の機械式継手工 (4) ロックナットが無く、有機系グラウト材を用いるねじ鉄筋継手（グラウト固定方式） (5) スリッパ着ネジ継手、摩擦圧接ネジ継手 (6) 鉄筋径13mm～51mmまでの機械式継手 1-2 適用出来ない範囲 1-2-1 加工・組立 (1) ダム本体工事における鉄筋工 (2) 鉄筋工の歩掛が個別に設定されている工種（コンクリートブロック積（張）工、コンクリート舗装工、橋梁地覆補修工、ポストテンション桁製作工、P C橋架設工、ポストテンション場所打ホロースラブ橋工、ポストテンション場所打箱桁橋工、伸縮装置工、沓座拡幅工） 1-2-2 継手 (1) 熱間押抜法によるガス圧接継手 (2) プレキャスト（継手内蔵）、コンクリート打継面（鉄筋継手を一断面に集めて配置）の接合 (3) ロックナット付、無機系グラウト材を用いるねじ鉄筋継手（グラウト固定方式） (4) モルタル充填継手 Ⅱ-4-④-1

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁	改定前	改定後
		2. 施 工 概 要 2-1 施工内容 2-1-1 加工・組立 鉄筋を設計図に示された形状及び寸法に一致するように、鉄筋加工機等を用いて加工し、鉄筋結束線等により組立てる工法である。 2-1-2 ガス圧接継手 2本の鉄筋を酸素とアセチレンなどの可燃性ガスの火炎によって金属端面を高温に加熱し、同時に軸方向の圧力をかけることで接合を行う工法である。 2-1-3 機械式継手（グラウト） 2本の鉄筋を、カプラー（スリーブ）と鉄筋の隙間に高強度のグラウト材を注入・硬化させることで接合を行う工法である。 2-1-4 機械式継手（ねじ加工） 2本の鉄筋を、グラウトを使わず、ロックナット等をトルクレンチ等で締め付けることで機械的に固定し接合を行う工法である。 2-2 施工フロー 施工フローは、下記を標準とする。  (注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。 図2-1 施工フロー図 Ⅱ-4-④-2

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表																																																																														
頁	改定前					改定後																																																																								
						3. 施 工 歩 掛 3-1 加工 3-1-1 施工歩掛 加工の歩掛は、次表を標準とする。 表3.1 加工歩掛 (1t当り) <table><tr><th rowspan="2">名 称</th><th rowspan="2">単 位</th><th rowspan="2">規 格</th><th colspan="7">鉄 筋 径 (mm)</th></tr><tr><th>10～13</th><th>16～25</th><th>29～32</th><th>35</th><th>38</th><th>41</th><th>51</th></tr><tr><td>土木一般世話役</td><td>人</td><td></td><td>0.2</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr><tr><td>鉄 筋 工</td><td>#</td><td></td><td>2.3</td><td>1.7</td><td>1.2</td><td>1.1</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.8</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>#</td><td></td><td>0.2</td><td>0.2</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン運転</td><td>日</td><td>油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t吊</td><td>0.04</td><td>0.04</td><td>0.04</td><td>0.04</td><td>0.04</td><td>0.04</td><td>0.04</td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td>%</td><td></td><td colspan="7">12</td></tr></table> (注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。 2. 鉄筋強度、長さを問わず、同一歩掛とする。 3. ラフテレーンクレーンは賃料とする。 4. フック鉄筋以外の定着工法用の鉄筋加工費、鉄筋のねじ切り加工費は別途計上する。 5. フレア溶接を行う場合は、フレア溶接費用を別途計上する。 6. 諸経費は鉄筋曲機・鉄筋切断機・電力にかかる経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。 7. 鉄筋加工に伴う現場内小運搬を含む。 3-1-2 鉄筋使用量 鉄筋の使用量は次式による。 使用量 (t)＝設計量 (t) × (1+K)・・・・・・・・・・式3.1 K：ロス率 表3.2 ロス率(K) <table><tr><td>ロ ス 率</td><td>+0.03</td></tr></table>				名 称	単 位	規 格	鉄 筋 径 (mm)							10～13	16～25	29～32	35	38	41	51	土木一般世話役	人		0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	鉄 筋 工	#		2.3	1.7	1.2	1.1	1.0	1.0	0.8	普 通 作 業 員	#		0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	ラフテレーンクレーン運転	日	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t吊	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	諸 雑 費	%		12							ロ ス 率	+0.03
名 称	単 位	規 格	鉄 筋 径 (mm)																																																																											
			10～13	16～25	29～32	35	38	41	51																																																																					
土木一般世話役	人		0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1																																																																					
鉄 筋 工	#		2.3	1.7	1.2	1.1	1.0	1.0	0.8																																																																					
普 通 作 業 員	#		0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1																																																																					
ラフテレーンクレーン運転	日	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t吊	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04																																																																					
諸 雑 費	%		12																																																																											
ロ ス 率	+0.03																																																																													

II-4-④-3

令和7年度(10月20日以降適用) 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁

改定前

3-2 組立

3-2-1 一般構造物

一般構造物における組立の歩掛は、次表を標準とする。

表3.3 組立歩掛(一般構造物) (1t当り)

名 称	単 位	規 格	鉄 筋 径 (mm)						
			10～13	16～25	29～32	35	38	41	51
土木一般世話役	人		0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
鉄 筋 工	#		3.5	2.9	2.1	1.7	1.4	1.2	1.1
普 通 作 業 員	#		0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
ラフテレンクレーン運転	日	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t吊	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
諸 雑 費	%		8				11		

(注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。
2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。
3. ラフテレンクレーンは賃料とする。
4. 組立架台や組立鋼材（形鋼）を必要とする場合には、別途計上する。
5. 組立に伴う現場内小運搬を含む。
6. 諸雑費は鉄筋結束機及び結束線、ハッカー、スベータ等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。
7. 組立の歩掛には、鉄筋材料の費用が含まれていないため必要に応じて別途計上する。

3-2-2 橋梁用床版

橋梁用床版における組立の歩掛は、次表を標準とする。

表3.4 組立歩掛(橋梁用床版) (1t当り)

名 称	単 位	規 格	鉄 筋 径 (mm)	
			13	16～25
土木一般世話役	人		0.4	0.4
鉄 筋 工	#		3.2	2.6
普 通 作 業 員	#		0.2	0.2
ラフテレンクレーン運転	日	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (2014年規制) 最大吊上能力 25t吊	0.07	0.07
諸 雑 費	%		14	

(注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。
2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。
3. ラフテレンクレーンは賃料とする。
4. 組立架台や組立鋼材（形鋼）を必要とする場合には、別途計上する。
5. 組立に伴う現場内小運搬を含む。
6. 諸雑費は鉄筋結束機及び結束線、ハッカー、スベータ等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。
7. 組立の歩掛には、鉄筋材料の費用が含まれていないため必要に応じて別途計上する。

II-4-④-4

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表

頁

改定前

3-2-3 場所打鉄筋かご

場所打鉄筋かごにおける組立の歩掛は、次表を標準とする。

表3.5 組立歩掛(場所打鉄筋かご) (1t当り)

名 称	単 位	鉄 筋 径 (mm)			
		13	16～25	29～32	35
土木一般世話役	人	0.4	0.3	0.2	0.2
鉄 筋 工	#	2.8	2.1	1.6	1.1
普 通 作 業 員	#	0.2	0.2	0.1	0.1
諸 雑 費	%	6			

(注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。
2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。
3. 組立架台を必要とする場合には、別途計上する。
4. 組立に伴う現場内小運搬を含む。
5. 場所打杭用かご筋をあらかじめ掘削坑内以外において組立てる場合に適用し、掘削坑内でかご状に組立てる場合については「一般構造物」を適用する。
6. 固定金具や補強材（補強リング）の設置手間は含むが、材料費は含まない。
7. 場所打杭用かご筋は、固定金具、補強材およびスベーサの重量は含めない。ただし、補強材およびスベーサに異形棒鋼または丸鋼を使用する場合は、補強材およびスベーサの重量を加算する。
8. 諸雑費は鉄筋結束機及び結束線、ハッカー等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。
9. 組立の歩掛には、鉄筋材料の費用が含まれていないため必要に応じて別途計上する。

3-2-4 トンネル内構造物

トンネル内構造物における組立の歩掛は、次表を標準とする。

表3.6 組立歩掛(トンネル内構造物) (1t当り)

名 称	単 位	規 格	鉄 筋 径 (mm)						
			10～13	16～25	29～32	35	38	41	51
トンネル世話役	人		0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
トンネル特殊工	#		3.5	2.9	2.1	1.7	1.4	1.2	1.1
トンネル作業員	#		0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
ラフテレーン クレーン運転	日	油圧伸縮ジブ型 掘出ガス対策型 (2014年度制) 最大吊上能力 25t吊	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
諸 雑 費	%		8				11		

(注) 1. 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。
2. 鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。
3. ラフテレーンクレーンは賃料とする。
4. 組立架台や組立鋼材（形鋼）を必要とする場合には、別途計上する。
5. 組立に伴う現場内小運搬を含む。
6. 諸雑費は鉄筋結束機及び結束線、ハッカー、スベーサ等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。
7. 組立の歩掛には、鉄筋材料の費用が含まれていないため必要に応じて別途計上する。

改定後

II-4-④-5

令和7年度（10月20日以降適用） 積算基準〔1 一般土木〕全国版その1 改定対照表																																																																																																																												
頁	改定前	改定後																																																																																																																										
		3-2-5 差筋および杭頭処理 差筋および杭頭処理の組立歩掛は、次表を標準とする。 表3.7 組立歩掛（差筋および杭頭処理）（1t当り） <table><tr><th rowspan="2">名 称</th><th rowspan="2">単 位</th><th colspan="7">鉄 筋 径（mm）</th></tr><tr><th>10～13</th><th>16～25</th><th>29～32</th><th>35</th><th>38</th><th>41</th><th>51</th></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td>人</td><td>0.5</td><td>0.4</td><td>0.3</td><td>0.2</td><td>0.2</td><td>0.2</td><td>0.1</td></tr><tr><td>鉄 筋 工</td><td>#</td><td>3.3</td><td>2.8</td><td>2.0</td><td>1.6</td><td>1.3</td><td>1.1</td><td>1.0</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>#</td><td>0.3</td><td>0.2</td><td>0.2</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td>%</td><td colspan="7">2</td></tr></table> （注）1．普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。 2．鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。 3．組立に伴う現場内小運搬を含む。 4．諸雑費は電気溶接機、電力にかかる経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。 5．組立の歩掛には、鉄筋材料の費用が含まれていないため必要に応じて別途計上する。 3-3 継手 3-3-1 ガス圧接継手 構造物等によりガス圧接を必要とする場合には、次表を標準とする。 表3.8 ガス圧接継手歩掛（100箇所当り） <table><tr><th rowspan="2">名 称</th><th rowspan="2">単 位</th><th colspan="6">鉄 筋 径（mm）</th></tr><tr><th>16～25</th><th>29～32</th><th>35</th><th>38</th><th>41</th><th>51</th></tr><tr><td>土 木 一 般 世 話 役</td><td>人</td><td>0.2</td><td>0.5</td><td>0.6</td><td>0.8</td><td>0.9</td><td>1.5</td></tr><tr><td>鉄 筋 工</td><td>#</td><td>0.5</td><td>1.3</td><td>1.7</td><td>2.1</td><td>2.5</td><td>4.2</td></tr><tr><td>溶 接 工</td><td>#</td><td>1.2</td><td>2.9</td><td>4.3</td><td>5.0</td><td>6.1</td><td>10.2</td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>#</td><td>0.4</td><td>1.0</td><td>1.3</td><td>1.6</td><td>1.9</td><td>3.2</td></tr><tr><td>アセチレンガス</td><td>kg</td><td>5.0</td><td>6.5</td><td>21.0</td><td>35.0</td><td>38.5</td><td>105.0</td></tr><tr><td>酸 素</td><td>m3</td><td>5.0</td><td>6.5</td><td>14.0</td><td>23.0</td><td>27.4</td><td>70.0</td></tr><tr><td>諸 雑 費</td><td>%</td><td colspan="6">8</td></tr></table> （注）1．普通鉄筋・異形鉄筋とも同一歩掛とする。 2．鉄筋強度、長さに関わらず同一歩掛とする。 3．径違いの接合の場合は上位規格の径を適用する。 4．圧接前の配筋および圧接後の鉄筋の切断費用、試験費用は含まない。 5．諸雑費はガス圧接装置・電力にかかる経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の諸雑費率を乗じた金額を上限として計上する。	名 称	単 位	鉄 筋 径（mm）							10～13	16～25	29～32	35	38	41	51	土 木 一 般 世 話 役	人	0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	鉄 筋 工	#	3.3	2.8	2.0	1.6	1.3	1.1	1.0	普 通 作 業 員	#	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	諸 雑 費	%	2							名 称	単 位	鉄 筋 径（mm）						16～25	29～32	35	38	41	51	土 木 一 般 世 話 役	人	0.2	0.5	0.6	0.8	0.9	1.5	鉄 筋 工	#	0.5	1.3	1.7	2.1	2.5	4.2	溶 接 工	#	1.2	2.9	4.3	5.0	6.1	10.2	普 通 作 業 員	#	0.4	1.0	1.3	1.6	1.9	3.2	アセチレンガス	kg	5.0	6.5	21.0	35.0	38.5	105.0	酸 素	m3	5.0	6.5	14.0	23.0	27.4	70.0	諸 雑 費	%	8					
名 称	単 位	鉄 筋 径（mm）																																																																																																																										
		10～13	16～25	29～32	35	38	41	51																																																																																																																				
土 木 一 般 世 話 役	人	0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1																																																																																																																				
鉄 筋 工	#	3.3	2.8	2.0	1.6	1.3	1.1	1.0																																																																																																																				
普 通 作 業 員	#	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1																																																																																																																				
諸 雑 費	%	2																																																																																																																										
名 称	単 位	鉄 筋 径（mm）																																																																																																																										
		16～25	29～32	35	38	41	51																																																																																																																					
土 木 一 般 世 話 役	人	0.2	0.5	0.6	0.8	0.9	1.5																																																																																																																					
鉄 筋 工	#	0.5	1.3	1.7	2.1	2.5	4.2																																																																																																																					
溶 接 工	#	1.2	2.9	4.3	5.0	6.1	10.2																																																																																																																					
普 通 作 業 員	#	0.4	1.0	1.3	1.6	1.9	3.2																																																																																																																					
アセチレンガス	kg	5.0	6.5	21.0	35.0	38.5	105.0																																																																																																																					
酸 素	m3	5.0	6.5	14.0	23.0	27.4	70.0																																																																																																																					
諸 雑 費	%	8																																																																																																																										

II-4-④-6